

神戸大学学報

No. 454

1994. 7 庶務部庶務課発行

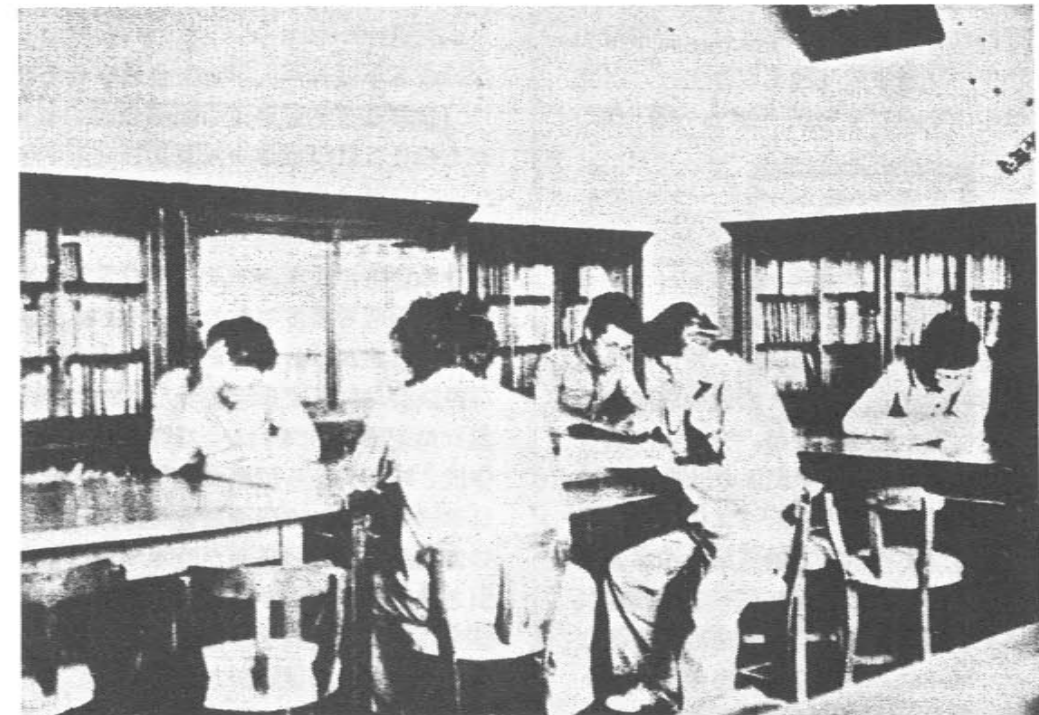


図 書 閱 覧 室

目 次	
◇学内ニュース..... 2	◇人事 15
・平成6年度厚生補導担当教官研究会の実施	・異動 ・研修 ・海外渡航
・北京大学総務関係者一行の来学	◇学事..... 21
・平成6年度神戸大学育友会理事会及び懇談会の開催	・学位授与
・名誉教授・部局長懇談会の開催	・在籍学生数調べ（平成6年5月1日現在）
・医療技術短期大学部公開講座の閉講	・平成7年度入学者選抜方法の決定
・平成6年度農学部附属農場さなばり祭の実施	・平成7年度大学院学生募集要項（抜粋）
・訃報	・平成6年度国際研究集会派遣研究員の決定（第Ⅱ期）
・教育と研究のより良い環境のために — 神戸大学改革の現状—を刊行別冊	◇掲示板 51
◇法令 4	・職員の住所変更等 ・改姓
・法律 ・政令 ・省令 ・文部省告示	◇日誌 51
◇学内規則 4	◇神戸大学100年史編集室だより 52

学内ニュース

◇平成6年度厚生補導担当教官研究会の実施

このことについて、6月3日（金）午後から4日（土）の2日間に亘り、兵庫県立新たんば荘において実施しました。

この研究会は、毎年この時期に1泊2日で、学生部長を始め補導協議会メンバーに学生部職員に参加を得て行われています。本年度は、近年増加傾向にある学生の交通事故問題を取り上げ、研究討議を「学生の交通安全対策と事故への対応」とし、

1. 交通安全と指導
2. 学内の車両対策及び施設
3. 事故とその対応

等について活発な討議を行いました。

その結果、短期的には通学方法等（特に単車通学者）の実状調査の実施、学内・周辺の危険地域地図作成、教官へ安全配慮の要請、交通安全講習会の実施、中期的には交通安全関係の授業（総合）科目の開設、長期的には学内巡回バスの運行、単車専用道路の設置、その他抜本的施策等が必要である。また、今後ともこの問題について積極的に取り組んでいくこととして、研究会を終了しました。

—学生課—

◇北京大学総務関係者一行の来学

6月17日（金）午後2時45分に北京大学馬雲章副総務長他5名の総務関係者一行が本学を訪れました。

一行は、大阪経済法科大学の招請により、日本の国・公・私立大学における施設や管理運営面の視察のため来日されたものです。

本学では、本部庁舎4階特別会議室において、大矢国際主幹、田北厚生課長等から本学の概要等の説明を受けた後、自然科学系図書館及びLANS BOXを見学されました。



—国際主幹—

◇平成6年度神戸大学育友会理事会及び懇談会（全学及び学部別）の開催

このことについて、6月18日（土）午後開催した。

理事会は、本部特別会議室において、理事長他多数の理事が出席のもと、平成5年度事業・会計報告、平成6年度事業計画・予算案、新理事の選出等の審議が行われ、それぞれ承認しました。

懇談会は、平成6年度新入生の保護者等（2,598名）に対し案内を行い、約350名の出席を得て、午後2時30分から国際文化学部・大学教育研究センター等において開催しました。全学懇談会においては、宝官理事長及び鈴木学長の挨拶があり、引き続き、多淵副学長・大学教育研究センター長から「大学と教育」、柳川学生部長から「学生生活について」の講話がありました。その後、学部別懇談会が各会場に分かれ、学部長、補導委員、事務長等が出席の上、各学部の概要、現状、就職状況等の説明及び質疑応答が活発に行われ、午後5時30分頃終了しました。

—学生課—

◇名誉教授・部局長懇談会の開催

6月23日（木）午後2時30分から、名誉教授と部局長との懇談会を自然科学研究科大会議室において開催しました。

懇談会は、鈴木学長による新名誉教授紹介に始まり、引き続いて学長、自然科学研究科長、国際協力研究科長、医療技術短期大学部長による大学の現況報告があり、最後に名誉教授の代表の方々から近況が語られました。引き続き、六甲台学舎正門階段において記念撮影を行い、その後、会場を「海龍」に移して懇談会を行いました。懇談会では木内名誉教授の音頭で乾杯の後、懇談に移り、和やかな雰囲気の中で午後7時30分に散会しました。



—庶務課—

◇第11回医療技術短期大学部公開講座の閉講

本年度公開講座の閉講式を6月25日（土）にカンファレンスルームにおいて行いました。

同講座は、5月28日から6月25日の5週間にわたって毎週土曜日に「家庭内の医療—自分でできる健康管理—」をテーマとして10講義を行ったものです。

日頃の生活の中で、健康を維持・増進し、病気を予防していくのに役立つようにとの観点から講座を実施しました。

学外からは、2名の講師を招き「健康診断における検査値の見方」「食生活管理」など受講者の関心の高いと思われる分野について講義をいただいたほか、「癌の予防と早期発見」「脳血管障害」「ストレス管理」「下肢の衰えと自己管理」「自分でできる体操」「見直してみようあなたの習慣」と変化に富んだ講座となりました。

熱心な受講者が多く、質疑応答も活発に行われるなど好評のうちに講座は閉講し、受講者は70名のうち6講義以上を受講された66名の方に、修了証書を授与しました。

—医療技術短期大学部—

◇平成6年度農学部附属農場「さなぼり祭」の実施

平成6年度農学部附属農場「さなぼり祭」が、6月29日（水）午前11時30分から附属農場において行われました。「さなぼり祭（早苗餐祭）」は、田植えが無事に終わったことを祝い、田の神に感謝する農事の節目となる行事です。

当日は梅雨の合間の好天のもと、鈴木学長をはじめ、事務局、農学部及び附属農場の教職員約60名が出席し、今年の豊稔を祈念しつつ、歓談しました。



—附属農場—

◇訃報



文学部長・文化学研究科長である、池上忠治氏には、去る6月28日（火）午後10時45分、[]のため逝去されました。享年57歳でした。ここに謹んで哀悼の意を表します。

先生は昭和11年7月30日新潟県に生まれ、昭和37年3月東京大学大学院人文科学研究科美学美術史学専門課程修士課程修了後、東京大学文学部助手を経て、昭和43年3月本学部講師に就任、昭和46年6月助教授、昭和56年3月教授となり、26年の永きにわたって本学における、西洋美術史の教育・研究に尽力されると共に、その間、文学部における各種委員や評議員等をつとめ、また平成5年4月文学部長・文化学研究科長を併任するにょよんで文学部の行政にも手腕を発揮されました。

先生はフランス近代絵画史、ヨーロッパ彫刻史をその主たる研究課題として来られたが、研究の範囲はそれにとどまらず、いわゆる「ジャポニスム」の研究は、東西の美術に通じた先生の深い学識と鋭い鑑賞眼を俟って、初めて可能であったと思われます。

また先生の、厳格でしかし公正かつ誠実な研究指導は、多くの有為な若い研究者を生み、各地の美術館、博物館等において立派に育ちつつあります。

さらに先生はその人格の故に、学会における重鎮として、各種委員をつとめ、学会の発展にも寄与されました。

十二分の活躍を、様々な分野ですでに果たされてきたとはいえ、57歳、まだまだこれからという時期に、突然の病魔に襲われた先生の無念を想うと心が痛むと共に、本学文学部や学会にとっても大きな損失であり、痛手であります。

なお葬儀は7月1日（金）午後12時30分から神戸市東灘区御影本町の西方寺で執り行われました。御遺族の住所は、次のとおりです。

—文学部—

法 令

◇法律

法律第33号 一般職の職員の勤務時間、休暇等に関する法律
(平成6年6月15日付官報)

◇政令

政令第156号 行政機関職員定員令及び沖縄の復帰に伴う行政機関の職員の定員に関する法律の適用の特別措置に関する政令の一部を改正する政令
(平成6年6月24日付官報)

◇省令

省令第16号 文部省定員規則の一部を改正する省令
(平成6年6月24日付官報)

省令第21号 国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令
(平成6年6月24日付官報)

省令第22号 国立大学の学科及び課程並びに講座及び学科目に関する省令の一部を改正する省令
(平成6年6月24日付官報)

省令第23号 国立学校における授業料その他の費用に関する省令の一部を改正する省令
(平成6年6月24日付官報)

◇文部省告示第80号 大学等における組換えDNA実験指針
(平成6年6月9日付官報)

学 内 規 則

◇神戸大学経済学部長選挙規程の一部を改正する規程

(平成6年6月9日)

改正要点

選考協議会の構成員に国際協力研究科の教官で、経済学部勤務を命ぜられている者を加えたこと。

神戸大学経済学部長選挙規程の一部を改正する規程

神戸大学経済学部長選挙規程（昭和27年3月24日制定）の一部を次のように改正する。

第3条中「専任」を「勤務」に改め、「講師」の下に「（非常勤講師を除く。）」を加える。

附 則

この規程は、平成6年6月9日から施行する。

◇神戸大学学則の一部を改正する学則

(平成6年6月23日)

改正要点

理学部において第3年次編入学を行うため。

神戸大学学則の一部を改正する学則を次のように定める。

平成6年6月23日

神戸大学長 鈴木 正 裕

神戸大学学則の一部を改正する学則

神戸大学学則（昭和33年5月15日制定）の一部を次のように改正する。

第10条第2項中「法学部」を「法学部及び理学部」に改める。

附 則

この学則は、平成6年6月23日から施行する。

◇神戸大学機器分析センター運営委員会規程

(平成6年6月24日制定)

神戸大学機器分析センター運営委員会規程を次のように定める。

平成6年6月24日

神戸大学長 鈴木 正 裕

神戸大学機器分析センター運営委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、神戸大学機器分析センター規則（平成6年6月24日制定）第7条第2項の規定に基づき、神戸大学機器分析センター運営委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定めるものとする。

(所掌事項)

第2条 委員会は、神戸大学機器分析センター（以下「センター」という。）の管理運営に関する重要な事項を審議する。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

1 文学部、発達科学部、理学部、医学部、工学部、農学部、自然科学研究科及び医学部附属病院から選出された教官各1人

2 センター長及び副センター長

3 その他委員会が必要と認めた者

2 委員は、学長が任命する。
3 第1項第1号及び第3号に掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指名する委員が、その職務を代行する。

(議事)

第5条 委員会は、委員の3分の2以上が出席しなければ議事を開き、議決をすることができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可決同数のときは、議長の決するところによる。

(専門委員会)

第6条 委員会に専門の事項を調査審議させるため、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会は、専門委員若干人をもって組織する。

3 専門委員は、委員会の議に基づき、センター長が委嘱する。

(事務)

第7条 委員会の庶務は、当分の間、庶務部大学院課において処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成6年6月24日から施行する。
- 2 この規程施行後最初に任命される委員の任期は、第3条第3項の規定にかかわらず、文学部、理学部、工学部及び医学部附属病院から選出される委員については、平成7年3月31日までとし、発達科学部、医学部、農学部及び自然科学研究科から選出される委員については、平成8年3月31日までとする。
- 3 神戸大学科学計測センター運営委員会規程（昭和51年12月16日制定）は、廃止する。

〔制定理由〕

神戸大学機器分析センター運営委員会の組織及び運営について必要な事項を定めるため、制定するものである。

◇神戸大学理学部教授会規程の一部を改正する規程

(平成6年6月24日)

改正要点

教授会の組織を改めたこと。

神戸大学理学部教授会規程の一部を改正する規程

神戸大学理学部教授会規程（昭和33年12月19日制定）の一部を次のように改正する。

第1条中「専任」を「勤務」に改め、「講師」の下に「（非常勤講師を除く。）」を加える。

附 則

この規程は、平成6年6月24日から施行する。

◇神戸大学工学部教授会規程の一部を改正する規程

(平成6年6月24日)

改正要点

1. 教授会の組織を改めたこと。
2. 字句等を整備したこと。

神戸大学工学部教授会規程の一部を改正する規程

神戸大学工学部教授会規程（昭和27年12月5日制定）の一部を次のように改正する。

第2条第1項中「専任教授」を「教授」に改め、同条第2項中「専任教授を以て」を「教授をもって」に、「基いて」を「基づいて」に、「専任助

教授又は専任講師」を「助教授及び講師（非常勤講師を除く。）」に改める。

附 則

この規程は、平成6年6月24日から施行する。

◇神戸大学農学部教授会規程の一部を改正する規程

（平成6年6月24日）

改正要点

教授会の組織を改めたこと。

神戸大学農学部教授会規程の一部を改正する規程

神戸大学農学部教授会規程（昭和42年6月21日制定）の一部を次のように改正する。

第2条中「専任」を「勤務」に改め、「講師」の下に「（非常勤講師を除く。）」を加える。

附 則

この規程は、平成6年6月24日から施行する。

◇神戸大学大学院理学研究科委員会規則の一部を改正する規則

（平成6年6月24日）

改正要点

研究科委員会の組織を改めたこと。

神戸大学大学院理学研究科委員会規則の一部を改正する規則

神戸大学大学院理学研究科委員会規則（昭和56年4月1日制定）の一部を次のように改正する。

第3条中「修士講座に所属する専任の教授」を「研究科を担当する理学部勤務の教授、助教授及び講師（非常勤講師を除く。）」に改め、同条ただし書きを削る。

附 則

この規程は、平成6年6月24日から施行する。

◇神戸大学事務組織規則の一部を改正する規則

（平成6年6月24日）

改正要点

1. 庶務部に大学院課を置いたこと。
2. 庶務課の事務分掌を整備したこと。
3. 大学院課の事務分掌を規定したこと。
4. 経理課の事務分掌を整備したこと。

5. 各学部等の事務部等を整備したこと。
6. 事務室長を廃止したこと。
7. 大学院課に専門職員を置いたこと。

神戸大学事務組織規則の一部を改正する規則を次のように定める。

平成6年6月24日

神戸大学長 鈴木 正 裕

神戸大学事務組織規則の一部を改正する規則

神戸大学事務組織規則（昭和42年5月31日制定）の一部を次のように改正する。

第3条第2項中「3課」を「4課」に、「人事課」を「人事課 大学院課」に改める。

第4条第19号を削り、第20号を第19号とする。

第5条の3を第5条の4とし、第5条の2を第5条の3とし、第5条の次に次の1条を加える。

（大学院課の事務）

第5条の2 大学院課においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 文化学研究科、自然科学研究科及び国際協力研究科に関すること（会計に関するものを除く。）。
- (2) 機器分析センターに関すること。

第7条第13号中「及び自然科学研究科」を「自然科学研究科及び国際協力研究科」に改める。

第14条第2項中「経済学部事務部にあっては経済学部及び国際協力研究科の事務を」を削り、同条第3項を削り、同条第4項を第3項とする。

第21条の2を削り、第21条の3を第21条の2とする。

第22条の2第1項中「及び人事課」を「人事課及び大学院課」に改める。

附 則

この規則は、平成6年6月24日から施行する。

◇神戸大学事務局・学生部事務分掌規程の一部を改正する規程

（平成6年6月24日）

改正要点

1. 庶務課の大学院総務掛及び大学院教務掛を廃止したこと。
2. 大学院課に企画掛、教務掛、国際協力研究掛を置き、その事務分掌を規定したこと。

神戸大学事務局・学生部事務分掌規程の一部を改正する規程を次のように定める。

平成6年6月24日

神戸大学長 鈴木 正 裕

神戸大学事務局・学生部事務分掌規程の一部を改正する規程

神戸大学事務局・学生部事務分掌規程（昭和42年8月19日制定）の一部を次のように改正する。

第2条第1項中「3人」を「2人」に、「六掛」を「4掛」に改め、「大学院総務掛」及び「大学院教務掛」を削り、同条中第4項を削り、第5項を第4項とし、第6項から第8項までを1項ずつ繰り上げ、第9項及び第10項を削る。

第3条の3を第3条の4とし、第3条の2を第3条3とし、第3条の次に次の1条を加える。

（大学院課）

第3条の2 大学院課に専門職員及び次の3掛を置く。

企画掛

教務掛

国際協力研究掛

2 専門職員は、次の事務をつかさどる。

- (1) 大学院教育の改善に係る調査及び企画立案に関すること。
- (2) 機器分析センターに関すること。
- (3) その他大学院課の所掌する事務のうち、特定の専門的事項に関すること。

3 企画掛においては、文化学研究科、自然科学研究科及び国際協力研究科（以下「独立研究科」という。）の次の事務をつかさどる。

- (1) 独立研究科の事務に関し、総括し、及び連絡調整すること。
- (2) 研究科委員会その他の会議及び諸行事に関すること（国際協力研究掛の所掌に係るものを除く。）。
- (3) 規則等の制定及び改廃に関すること。
- (4) 専攻、講座等の設置及び改廃に関すること（国際協力研究掛の所掌に係るものを除く。）。
- (5) 公印の管守に関すること（国際協力研究掛の所掌に係るものを除く。）。
- (6) 公文書の接授及び発送に関すること。
- (7) 学術奨励及び研究助成に関すること。
- (8) 職員の出張及び研修に関すること（国際協力研究掛の所掌に係るものを除く。）。
- (9) 職員の任免、給与、服務その他人事に関すること。
- (10) 職員の保健及び安全管理並びに福利厚生に

関すること。

(11) 退職手当及び共済組合の長期給付に関すること。

(12) 所掌事務に関する諸調査、統計及び報告に関すること（国際協力研究掛の所掌に係るものを除く。）。

(13) その他独立研究科の事務に関すること（国際協力研究掛の所掌に係るものを除く。）。

4 教務掛においては、独立研究科の次の事務をつかさどる。

(1) 学生の入学、退学、休学、修了、除籍及び懲戒等に関すること（国際協力研究掛の所掌に係るものを除く。）。

(2) 授業及び研究指導に関すること。

(3) 学位に関すること。

(4) 学生の留学に関すること。

(5) 外国人留学生に関すること。

(6) 特別聴講学生及び特別研究学生に関すること。

(7) 研究生に関すること。

(8) 墨加記録その他学生の記録に関すること。

(9) 奨学金並びに授業料等の免除及び徴収猶予に関すること。

(10) 学生の就職に関すること。

(11) 学生の諸証明に関すること。

(12) 所掌事務に関する諸調査、統計及び報告に関すること。

(13) その他教務及び学生に関すること。

5 国際協力研究掛においては、国際協力研究科の次の事務をつかさどる。

(1) 公印の管守に関すること。

(2) 研究科委員会その他の会議及び諸行事に関すること。

(3) 職員の出張及び研修に関すること。

(4) 専攻、講座等の設置及び改廃に関すること。

(5) 学生の休学、退学等に関すること。

(6) 所掌事務に関する諸調査、統計及び報告に関すること。

(7) その他研究科の事務に関すること。

附 則

この規程は、平成6年6月24日から施行する。

◇神戸大学理学部長候補者選考規程の一部を改正する規程

（平成6年6月24日）

改正要点

1. 理学部長候補者選挙の選挙権者を改めたこと。
2. 字句等を整備したこと。

神戸大学理学部長候補者選考規程の一部を改正する規程

神戸大学理学部長候補者選考規程（昭和50年2月13日制定）の一部を次のように改正する。

第7条中「に理学部に在籍する専任」を「における理学部勤務」に改め、「講師」の下に「（非常勤講師を除く。）」を加える。

第8条中「に在籍する」を削る。

附 則

この規程は、平成6年6月24日から施行する。

◇神戸大学機器分析センター教官選考委員会規程（平成6年6月24日制定）

神戸大学機器分析センター教官選考委員会規程を次のように定める。

神戸大学長 鈴木正裕

神戸大学機器分析センター教官選考委員会規程（趣旨）

第1条 この規程は、神戸大学機器分析センター規則（平成6年6月24日制定）第6条第2項の規定に基づき、神戸大学機器分析センター教官選考委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定めるものとする。

（組織）

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 文学部長、発達科学部長、理学部長、医学部長、工学部長、農学部長、自然科学研究科長及び医学部附属病院長
- (3) センター長及び副センター長（委員長）

第3条 委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指名する委員が、その職務を代行する。

（議事）

第4条 委員会は、委員の3分の2以上が出席しなければ議事を開き、議決をすることができない。

2 議事は、出席した委員の3分の2以上の賛成をもって決する。

（庶務）

第5条 委員会の庶務は、当分の間、庶務部大学院課において処理する。

附 則

この規程は、平成6年6月24日から施行する。

〔制定理由〕

神戸大学機器分析センター教官選考委員会の組織及び運営について必要な事項を定めるため、制定するものである。

◇神戸大学名誉教授称号授与規程等の一部を改正する規程

（平成6年6月24日）

改正要点

第1 （神戸大学名誉教授称号授与規程の一部改正）

名誉教授の選考機関に関する規定を整備したこと。（第4条関係）

第2 （神戸大学職員証取扱規程の一部改正）

職員証の発行の対象者について整備したこと。（別表関係）

第3 （神戸大学旅費支給規程の一部改正）

在勤地及び起点駅に係る部局等に関する規定を整備したこと。（別表第1及び別表第2関係）

第4 （神戸大学受託研究取扱規程の一部改正）

「部局」の定義を整備したこと。（第2条関係）

第5 （神戸大学科学研究費補助金経理事務取扱規程の一部改正）

機器分析センターに所属する研究代表者に係る補助金の支払手続等について整備したこと。（第4条第1項関係）

第6 （神戸大学物品管理事務取扱規程の一部改正）

1. 「部局」の定義を整備したこと。（第2条関係）
2. 物品に表示する記号及び定期検査の日に関する規定を整備したこと。（別表第1及び別表第4関係）

第7 （神戸大学公務員宿舎管理規程の一部改正）

「部局」の定義規定を整備したこと。（第2条関係）

第8 （神戸大学自家用電気工作物保安規程の一部改正）

一部改正）

自家用施設の利用者を整備したこと。（別表第1関係）

事務局長の管理範囲を

整備したこと。（別表第2関係）

第9 （神戸大学奨学寄附金受入及び委任経理事務取扱規程の一部改正）「部局」の定義を整備したこと。（第2条関係）

第10 （神戸大学国有財産取扱規程の一部改正）部局、部局長及び事務長等の定義規定を整備したこと。（別表関係）

神戸大学名誉教授称号授与規程等の一部改正する規程を次のように定める。

平成6年6月24日

神戸大学長 鈴木正裕

神戸大学名誉教授称号授与規程等の一部を改正する規程

（神戸大学名誉教授称号授与規程の一部改正）

第1条 神戸大学名誉教授称号授与規程（昭和62年7月16日制定）の一部を次のように改正する。

第4条中「国際協力研究科」を「自然科学研究科及び国際協力研究科」に、「及び留学生センター」を「留学生センター及び機器分析センター」に改める。

（神戸大学職員証取扱規程の一部改正）

第2条 神戸大学職員証取扱規程（昭和49年4月4日制定）の一部を次のように改正する。

別表の学長の項中「留学生センター」を「留学生センター・機器分析センター」に改める。

（神戸大学旅費支給規程の一部改正）

第3条 神戸大学旅費支給規程（昭和50年7月21日制定）の一部を次のように改正する。

別表第1及び別表第2の部局等の欄中「留学生センター」の下に「機器分析センター」を加える。

（神戸大学受託研究取扱規程の一部改正）

第4条 神戸大学受託研究取扱規程（昭和57年10月1日制定）の一部を次のように改正する。

第2条中「大学教育研究センター」の下に「機器分析センター」を加える。

（神戸大学科学研究費補助金経理事務取扱規程の一部改正）

第5条 神戸大学科学研究費補助金経理事務取扱規程（昭和52年8月18日制定）の一部を次のように改正する。

第4条第1項中「及び留学生センター」を「

留学生センター及び機器分析センター」に改める。

（神戸大学物品管理事務取扱規程の一部改正）

第6条 神戸大学物品管理事務取扱規程（昭和52年8月18日制定）の一部を次のように改正する。

第2条中「大学教育研究センター」の下に「機器分析センター」を加える。

別表第1中

大学教育研究センター	G	を
------------	---	---

大学教育研究センター	G	に改める。
機器分析センター	Ia	

別表第4の部局等の欄中「自然科学研究科」の下に「機器分析センター」を加える。

（神戸大学公務員宿舎管理規程の一部改正）

第7条 神戸大学公務員宿舎管理規程（昭和45年4月16日制定）の一部を次のように改正する。

第2条中「及び留学生センター」を「留学生センター及び機器分析センター」に改める。

（神戸大学自家用電気工作物保安規程の一部改正）

第8条 神戸大学自家用電気工作物保安規程（昭和59年10月8日制定）の一部を次のように改正する。

別表第1の六甲台地区の欄中「科学計測センター」を削り、「留学生センター」を「留学生センター、機器分析センター」に改める。

別表第2中「庶務課長補佐」を「大学院課長」に、「留学生センター」を「留学生センター、機器分析センター」に改め、「科学計測センター」を削る。

（神戸大学奨学寄附金受入及び委任経理事務取扱規程の一部改正）

第9条 神戸大学奨学寄附金受入及び委任経理事務取扱規程（昭和54年3月31日制定）の一部を次のように改正する。

第2条中「留学生センター」の下に「機器分析センター」を加える。

（神戸大学国有財産取扱規程の一部改正）

第10条 神戸大学国有財産取扱規程（昭和45年4月1日制定）の一部を次のように改正する。

別表中

留学生センター	〃	留学生課長	を
留学生センター	〃	留学生課長	
機器分析センター	〃	大学院課長	に改める。

附 則

この規程は、平成6年6月24日から施行する。

◇神戸大学旅行命令権復委任規則等の一部を改正する規則

(平成6年6月24日)

改正要点

第1 (神戸大学旅行命令権復委任規則の一部改正)

部局等の定義規定を整備したこと。(第2条関係)

第2 (神戸大学宿日直規則の一部改正)

部局等の長の定義規定を整備したこと。(第2条関係)

第3 (神戸大学職員の勤務時間等に関する規則の一部改正)

部局等の定義規定を整備したこと。(第2条関係)

第4 (神戸大学排水水質管理及び薬品類廃棄物処理規則の一部改正)

部局等の定義規定を整備したこと。(第2条関係)

第5 (神戸大学において任用する外国人教員の任期に関する規則の一部改正)

任期を定めて任用する外国人教員に関する規定を整備したこと。(第2条関係)

神戸大学旅行命令権復委任規則等の一部を改正する規則を次のように定める。

平成6年6月24日

神戸大学長 鈴木正裕

神戸大学旅行命令権復委任規則等の一部を改正する規則

(神戸大学旅行命令権復委任規則の一部改正)

第1条 神戸大学旅行命令権復委任規則(昭和62年3月27日制定)の一部を次のように改正する。

第2条中「留学生センター」の下に「機器分析センター」を加える。

(神戸大学宿日直規則の一部改正)

第2条 神戸大学宿日直規則(昭和43年11月4日制定)の一部を次のように改正する。

第2条第2項中「及び留学生センター長」を「留学生センター長及び機器分析センター長」に改める。

(神戸大学職員の勤務時間等に関する規則の一部改正)

第3条 神戸大学職員の勤務時間等に関する規則(平成4年4月30日制定)の一部を次のように改正する。

第2条中「留学生センター」の下に「機器分析センター」を加える。

(神戸大学排水水質管理及び薬品類廃棄物処理規則の一部改正)

第4条 神戸大学排水水質管理及び薬品類廃棄物処理規則(昭和56年1月22日制定)の一部を次のように改正する。

第2条第3号中「留学生センター」の下に「機器分析センター」を加え、「科学計測センター」を削る。

(神戸大学において任用する外国人教員の任期に関する規則の一部改正)

第5条 神戸大学において任用する外国人教員の任期に関する規則(昭和59年10月18日制定)の一部を次のように改正する。

第2条第2項中「及び留学生センター」を「留学生センター及び機器分析センター」に改める。

附 則

この規則は、平成6年6月24日から施行する。

◇神戸大学職員健康安全管理規程等の一部を改正する規程

(平成6年6月24日)

改正要点

第1 (神戸大学職員健康安全管理規程)

1. 部局等の定義を改めたこと。
2. 健康管理者、安全管理者等について整備したこと。

第2 (神戸大学公印規程)

公印の種類、管守責任者、管守補助者等について整備したこと。

神戸大学職員健康安全管理規程等の一部を改正する規程を次のように定める。

平成6年6月24日

神戸大学長 鈴木正裕

神戸大学職員健康安全管理規程等の一部を改正する規程

(神戸大学職員健康安全管理規程の一部改正)

第1条 神戸大学職員健康安全管理規程(昭和58年3月31日制定)の一部を次のように改正する。

第2条中「留学生センター」の下に「機器分析センター」を加え、「科学計測センター」を削る。

別表中

自然科学研究科	庶務課長	大学院総務部長	庶務課長	大学院総務部長
自然科学研究科	大学院課長	大学院課企画部長	大学院課長	大学院課企画部長
留学生センター	留学生課長	留学生センター部長	留学生課長	留学生センター部長
機器分析センター	大学院課長	大学院課企画部長	大学院課長	大学院課企画部長

を

留学生センター	留学生課長	留学生センター部長	留学生課長	留学生センター部長
機器分析センター	大学院課長	大学院課企画部長	大学院課長	大学院課企画部長

に改め、科学計測センターの項を削る。

(神戸大学公印規程の一部改正)

第2条 神戸大学公印規程(昭和51年12月28日制定)の一部を次のように改正する。

別表事務局の項中

事務局長の印	30	庶務課長	文書法規部長
庶務部長の印	23		
庶務課長の印	20		
人事課長の印	20		
国際主幹の印	20		
大学院課長の印	20	大学院課長	大学院課企画部長

を

事務局長の印	30	庶務課長	文書法規部長
庶務部長の印	23		
庶務課長の印	20		
人事課長の印	20		
国際主幹の印	20		
大学院課長の印	20	大学院課長	大学院課企画部長

に改め、
同表中

大 学 院 研 究 科	研究科の印	28	庶務課長	大学院総務部長
大 学 院 研 究 科	研究科長の印	30	18	
大 学 院 研 究 科	研究科の印	28	経済学部事務部長	経済学部大学院部長
大 学 院 研 究 科	研究科長の印	30	18	

を

大 学 院 研 究 科	研究科の印	28	大学院課長	大学院課企画部長
大 学 院 研 究 科	研究科長の印	30	18	
大 学 院 研 究 科	研究科の印	28	理学部事務部長	理学部庶務部長
大 学 院 研 究 科	研究科長の印	30	18	工学部事務部長
大 学 院 研 究 科	研究科の印	28	農学部事務部長	農学部庶務部長
大 学 院 研 究 科	研究科長の印	30	18	

に、

留 学 生 セ ン タ ー	留学生センターの印	25	留学生課長	留学生センター部長
留 学 生 セ ン タ ー	留学生センター長の印	23		

を

留 学 生 セ ン タ ー	留学生センターの印	25	留学生課長	留学生センター部長
留 学 生 セ ン タ ー	留学生センター長の印	23		
機 器 分 析 セ ン タ ー	機器分析センターの印	25	大学院課長	大学院課企画部長
機 器 分 析 セ ン タ ー	機器分析センター長の印	23		

に改める。

附 則

この規程は、平成6年6月24日から施行する。

◇神戸大学会計事務取扱規則の一部を改正する規則

(平成6年6月24日)

改正要点

1. 部局の定義を改めたこと。
2. 分任収入官吏及び分任収入官吏代理の事務の範囲を改めたこと。
3. 分任歳入歳出外現金出納官吏及び分任歳入歳出外現金出納官吏代理の事務の範囲を改めたこと。
4. 資金前渡官吏所属出納員の事務の範囲を改めたこと。

神戸大学会計事務取扱規則の一部を改正する規則を次のように定める。

平成6年6月24日

神戸大学長 鈴木 正 裕

神戸大学会計事務取扱規則の一部を改正する規則

神戸大学会計事務取扱規則（平成6年4月13日制定）の一部を次のように改正する。

第2条中「留学生センター」の下に「，機器分析センター」を加える。

別表第2第2号中

経済学部	〃	事務長補佐	〃
経営学部	〃	〃	〃

を

経済学部	〃	事務長補佐	当該部局及び国際協力研究科における歳入金の収納事務
経営学部	〃	〃	当該部局における歳入金の収納事務

に改め、

同表第5号中

経済学部	会計部長	事務長補佐	〃
経営学部	〃	〃	〃

を

経済学部	会計部長	事務長補佐	当該部局及び国際協力研究科における歳入歳出外現金の出納保管事務
経営学部	〃	〃	当該部局における歳入歳出外現金の出納保管事務

に改める。

別表第3第3号中

経済学部	〃	〃
経営学部	〃	〃

を

経済学部	〃	当該部局及び国際協力研究科に勤務する職員に対する給与及び児童手当の出納保管事務（現金に限る。）
経営学部	〃	当該部局に勤務する職員に対する給与及び児童手当の出納保管事務（現金に限る。）

に改める。

附 則

この規則は、平成6年6月24日から施行する。

◇神戸大学債権管理及び収入事務取扱規程の一部を改正する規程

(平成6年6月24日)

改正要点

事務長等の定義を改めたこと。

神戸大学債権管理及び収入事務取扱規程の一部を改正する規程を次のように定める。

平成6年6月24日

神戸大学長 鈴木 正 裕

神戸大学債権管理及び収入事務取扱規程の一部を改正する規程

神戸大学債権管理及び収入事務取扱規程（昭和46年6月12日制定）の一部を次のように改正する。

第10条中「庶務課課長補佐」を「大学院課長」に改める。

別表第1の自然科学研究科の項中「庶務課課長補佐」を「大学院課長」に改める。

附 則

この規程は、平成6年6月24日から施行する。

◇神戸大学医学部附属病院諸料金規程の一部を改正する規程

(平成6年6月24日)

改正要点

特定機能病院の承認を受けたことに伴い、診療等の料金を改めたこと。

神戸大学医学部附属病院諸料金規程の一部を改正する規程を次のように定める。

平成6年6月24日

神戸大学長 鈴木 正 裕

神戸大学医学部附属病院諸料金規程の一部を改正する規程

神戸大学医学部附属病院諸料金規程（昭和42年6月1日制定）の一部を次のように改正する。

第2条第1項第7号の次に次の1号を加える。

(8) 特定機能病院における初診時負担額

紹介なし患者の場合 515円
(500円)

消費税法で非課税とされる助産に係る資産の譲渡等に該当する場合については、括弧内の料金とする。

附 則

この規程は、平成6年7月1日から施行する。

◇神戸大学機器分析センター規則

(平成6年6月24日制定)

神戸大学機器分析センター規則を次のように定める。

平成6年6月24日

神戸大学長 鈴木 正 裕

神戸大学機器分析センター規則

(趣旨)

第1条 この規則は、国立学校設置法施行規則（昭和39年文部省令第11号）第20条の3第1項の規定に基づき設置された神戸大学機器分析センター（以下「センター」という。）の目的、組織、運営等について定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、神戸大学（以下「本学」という。）における各種分析機器を整備し、これらを集中管理して学内の共同利用に供するとともに、分析技術の研究開発等を行い、もって教育研究の進展に資することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 機器の整備に関すること。
- (2) 機器の共同利用に関すること。
- (3) 分析技術の研究開発並びにこれらの情報の収集及び提供に関すること。
- (4) 機器の工作及び開発に関すること。
- (5) 機器の保守管理に関すること。
- (6) その他センターの業務に関し必要なこと。

(職員)

第4条 センターに次の職員を置く。

- (1) センター長

(2) 副センター長

(3) 助教授及び助手

(4) その他の職員

(センター長)

第5条 センター長は、本学の専任の教授をもって充てる。

2 センター長は、センターの業務を掌理する。

3 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(副センター長)

第6条 副センター長は、本学の専任の教官をもって充てる。

2 副センター長は、センター長の職務を補佐する。

3 副センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(センター長等の選考)

第7条 センター長、副センター長及びセンターの専任教官の選考は、神戸大学機器分析センター教官選考委員会（以下「教官選考委員会」という。）の議に基づき、学長が行う。

2 教官選考委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、別に定める。

(運営委員会)

第8条 センターの管理運営に関する重要事項を審議するため、神戸大学機器分析センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第9条 センターの事務は、当分の間、庶務部大学院課において行う。

(雑則)

第10条 この規則に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、運営委員会が定める。

附 則

1 この規則は、平成6年6月24日から施行する。

2 この規則施行後最初に任命されるセンター長の任期は、第5条第3項の規定にかかわらず、平成8年3月31日までとする。

3 神戸大学科学計測センター設置規則（昭和51年12月16日制定）は、廃止する。

[制定理由]

神戸大学機器分析センターの組織及び運営について必要な事項を定めるため、制定するも

のである。

◇神戸大学科学計測センター利用規程を廃止する規程

(平成6年6月24日廃止)

神戸大学科学計測センター利用規程を廃止する規程を次のように定める。

平成6年6月24日

神戸大学長 鈴木正裕

神戸大学科学計測センター利用規程を廃止する規程

神戸大学科学計測センター利用規程(昭和58年3月31日制定)は、廃止する。

附 則

この規程は、平成6年6月24日から施行する。

〔廃止理由〕

科学計測センターが廃止されることに伴い、所要の改正を行うものである。

◇神戸大学情報ネットワークシステム運用規程の一部を改正する規程

(平成6年6月30日)

改正要点

1. 運用委員会の構成を改めたこと。
2. 運用委員会の庶務を総合情報処理センターで行うこととしたこと。

神戸大学情報ネットワークシステム運用規程の一部を改正する規程を次のように定める。

平成6年6月30日

神戸大学長 鈴木正裕

神戸大学情報ネットワークシステム運用規程の一部を改正する規程

神戸大学情報ネットワークシステム運用規程(平成4年3月12日制定)の一部を次のように改正する。

第4条第1号中「推薦された教官又は技官」を「推薦された者」に改める。

第6条の次に次の1条を加える。

第6条の2 運用委員会の庶務は、総合情報処理センターにおいて処理する。

附 則

この規程は、平成6年6月30日から施行する。



人 事

◇異動

所属部局 官 職	氏 名	発令 月 日	異 動 内 容 (異動前の所属官職)
副 学 長	多 淵 敏 樹	6.24	併任(工学部教授) 免(副学長)
"	小 林 哲 夫	"	併任(経営学部教授) 免(副学長)
事 務 局 〔庶務部〕 (大学院課)			
大学院課長	永 井 浩 一	6.24	配置換(事務局付)
専門職員	高 橋 健	"	" (庶務課専門職員)
企画掛長	坂 千 秋	"	" (庶務課大学院総務掛長)
教務掛長	佐 藤 祥 二	"	" (" 大学院教務掛長)
国際協力 研究掛長	野 上 清 博	"	" (経済学部大学院掛長)
企画掛 庶務主任	井 口 美津子	"	" (庶務課大学院総務掛庶務主任)
教 務 掛 教 務 主 任	坂 本 宏 信	"	" (" 大学院教務掛教務主任)
文部事務官	加 来 恵 太	"	" (" 文部事務官)
"	白 川 勝 也	"	" (経済学部 ")
学 生 部 (厚生課)			
事務補佐員	篠 田 知加子	7. 1	採用
	首 藤 美 香	6.30	辞職(事務補佐員)
附属図書館 (情報サービス課)			
	山 崎 真知子	6.25	育児休業(文部事務官)
事務補佐員	高 見 祐 子	7. 1	採用
	小 林 由布子	6.30	辞職(事務補佐員)
総合情報 処理センター			
	湯 本 照 美	6. 3	辞職(事務補佐員)

バイオシグナル 研究センター	センター長	西 塚 泰 美	6. 8	併任(医学部教授)
機器分析センター	センター長	西 野 種 夫	6.24	併任(工学部教授)
	助 手	笠 原 肇	"	昇任(工学部教務職員)
文 学 部		池 上 忠 治	6.28	死亡(学部長、教授)
学 部 長 事 務 取 扱		山 縣 熙	6.29	命(教授) 免(学部長事務代理)
教 授		岩 崎 信 彦	7. 1	昇任(助教授)
会 計 掛 物品管理主任		長谷川 和 子	6.24	配置換(庶務課大学院総務掛物品管理主任)
		"	"	併任解除(文学部)
教務学生掛 厚生主任		中 西 亮 子	"	配置換(庶務課大学院総務掛厚生主任)
		"	"	併任解除(文学部)
国際文化学部				
事務補佐員		久 保 敦 子	7. 1	採用
		佐 尾 美 保	"	6月30日限り退職 (事務補佐員)
発達科学部 (附属養護 学校)				
教 授		小 椋 たみ子	7. 1	配置換(島根大学教育学部教授)
教 諭		岩 崎 正 彦	7. 1	採用
		松 本 早 苗	6.13	育児休業(栄養士)
経 済 学 部				
教 授		ナガタニケイゾウ	7. 1	採用
理 学 部				
助 教 授		大 塚 利 行	7. 1	昇任(講師)
助 手		小 笹 隆 司	"	採用
医 学 部				
		藤 田 勝 三	6.30	辞職(助教授)
		谷 昌 寛	"	" (")
		今 井 幸 広	6.30	辞職(助手)
助 教 授		笹 田 明 徳	7. 1	昇任(講師)

助 手	辻 村 ま り	7. 1	配置換（医学部附属病院助手）
“	林 一 弘	“	採用
“	原 勲	“	“
（医 事 課）			
事務補佐員	北 まるみ	7. 1	採用
	水 島 加奈子	6.30	辞職（事務補佐員）
	太 田 千 恵	“	“（ “ ” ）
医 学 部 附 属 病 院			
	片 山 和 明	6.30	辞職（講師）
	植 本 雅 治	“	“（ “ ” ）
	今 中 一 文	“	“（ “ ” ）
	田 中 修	“	“（ “ ” ）
講 師	白 川 治	7. 1	昇任（助手）
“	糸 氏 英一郎	“	“（医学部助手）
助 手	梶 浦 祐 子	“	採用
“	岩 井 圭 司	“	“
“	泉 山 一 隆	“	“
“	森 美也子	“	“
脳神経外科 外 来 医 長	朝 田 雅 博	“	命（講師）
整 形 外 科 病 棟 医 長	三 枝 康 宏	“	“（ “ ” ）
医学部助教授	黒 坂 昌 弘	“	免（整形外科病棟医長）
産科婦人科 外 来 医 長	山 辺 晋 吾	“	命（医学部助手）
精神科神経科 病 棟 医 長	白 川 治	“	“（助手）
（周産母子 センター）			
部 長	望 月 眞 人	6.24	併任（医学部教授） 併任終了（分娩部長）
（病 理 部）			
	埴 岡 啓 介	7. 1	休職（助教授）
講 師	大 林 千 穂	“	昇任（医学部助手）
（薬 剤 部）			
技術補佐員	高 島 由 佳	6.16	採用
	仲 井 裕 子	6.15	辞職（技術補佐員）
（看 護 部）			
	篠 原 裕 子	6.30	辞職（副看護婦長）
	串 橋 裕 子	6.30	辞職（看護婦）
	大 迫 みゆき	“	“（ “ ” ）
	草 壁 朝 子	“	（看護助手）
看 護 婦	山 本 幸 栄	7. 1	採用
“	杉 原 友 子	“	“
“	池 田 千 草	“	“
技術補佐員	森 山 記代子	7. 1	採用
“	稲 垣 真由子	“	“
	池 田 千 草	6.30	辞職（技術補佐員）
	杉 原 友 子	“	“（ “ ” ）
工 学 部			
教 授	田 中 克 己	6.16	昇任（助教授）
	中 岡 睦 雄	7. 1	出向〔山口大学工学部教授〕（助教授）
	北 風 美 幸	6.30	辞職（事務補佐員）
農 学 部 （附属農場）			
助 教 授	保 坂 和 良	7. 1	昇任（助手）
大 学 院 文 学 研 究 科			
研 究 科 長 事 務 取 扱	真 方 忠 道	6.29	命（文学部教授） 免（研究科長事務代理）
大 学 院 自 然 科 学 研 究 科			
教 授	福 田 行 男	6.24	昇任（理学部助教授）
“	長谷川 信	“	“（農学部助教授）
“	福 田 秀 樹	“	配置換（工学部教授）
助 教 授	河 本 敏 郎	“	昇任（理学部講師）
“	三 宅 正 史	“	配置換（農学部助教授）
助 手	多 田 明 夫	7. 1	採用
経 済 経 営 研 究 所			
	和 田 明 子	6.30	辞職（助手）
助 手	首 藤 美 香	7. 1	採用
医 療 技 術 短 期 大 学 部			
助 教 授	大 野 隆	7. 1	昇任（助手）
助 手	清 水 美 生	“	採用

◇研修等

*平成6年度国公立大学病院薬剤部職員研修
期 間 平成6年5月16日～5月20日
会 場 東京大学医学部附属病院
主 催 文部省
参加者 医学部附属病院薬剤部薬剤師
西田由起子

*平成6年度国公立大学病院診療放射線技術者研修
期 間 平成6年5月30日～6月3日
会 場 東京大学医学部附属病院
主 催 文部省
参加者 医学部附属病院中央放射線部
診療放射線技師 堤 亜起子

*平成6年度国公立大学病院臨床検査技術者研修
期 間 平成6年6月6日～6月10日
会 場 東京大学医学部附属病院
主 催 文部省
参加者 医学部附属病院中央検査部
臨床検査技師 炬口真理子

*平成6年度国立大学等国際交流担当職員研修
期 間 平成6年6月13日～6月16日
会 場 文部省、国立オリンピック記念青少年総合センター
主 催 文部省
参加者 医学部学務課研究協力掛学術主任
小泉 雅彦

*平成6年度国立学校事務電算化基幹要員研修A
期 間 平成6年6月13日～6月17日
会 場 国立教育会館
主 催 文部省
参加者 経理課情報処理掛長 寺田 明

*平成6年度国立大学附属病院事務職員研修
期 間 平成6年6月14日～6月16日
会 場 東京大学医学部附属病院
主 催 文部省
参加者 医学部医事課入院掛長 江本 一行
“ 管理課司計決算主任
石坂 雅志

*第24回近畿地区公研協式接遇研修指導者養成研修
期 間 平成6年6月21日～6月24日
会 場 大阪合同庁舎
主 催 人事院近畿事務局
参加者 医学部医事課専門職員 伊藤 末博

*第9回近畿地区KET（公研協式公務員倫理研修）指導者養成研修
期 間 平成6年5月31日～6月3日
会 場 大阪合同庁舎
主 催 人事院近畿事務局
参加者 人事課課長補佐 松井 睦治

*平成6年度人事院式監督者研修（JST基本コース）
期 間 平成6年6月20日～6月22日
会 場 本学自然科学系図書館会議室
共 催 兵庫県下国立学校等
参加者

神戸大学厚生課専門職員 清水 久行
“ 経理部経理課出納掛長 福山 一幸
“ 学生課学生掛長 中村 高子
“ 法学部第二課程掛長 保井 広基
“ 経済学部第二課程掛長 高杉 寛
“ 経営学部第二課程掛長 安積 教夫
“ 理学部庶務掛長 佐古田義隆
“ 農学部庶務掛長 角永 義孝
“ 医学部総務課職員掛長 荻阪 政雄
“ 医学部総務課企画調査掛長
西井 淳三
“ 医学部医事課外来掛長 田邊 信二
“ 医学部附属病院中央検査部
“ 臨床検査主任技師 李 承皓
“ 医学部附属病院中央放射線
部診療放射線主任技師 小川 昭三
“ 医学部附属病院薬剤部
薬品情報室長 高久保佳秀
“ 医学部附属病院看護部
看護婦長 左近充ヤス子

—人事課—

◇海外渡航

所 属	職 名	氏 名	渡 航 先	渡 航 目 的	渡航期間	備 考
庶 務 部	留学生 掛 長	木 下 進	中華人民共和国	平成6年度「日本留学フェア」参加のため	6. 6.30 } 6. 7. 4	出 張
文 学 部	教 授	山 田 敬三	“	当代華文散文国際シンポジウムへの参加と研究発表	6. 6. 1 } 6. 6. 8	研 修
発達科学部	講 師	平 山 洋介	連合王国 デンマーク	ノンプロフィット住宅に関する調査	6. 6. 5 } 6. 6.20	“
“	助教授	城 仁 士	オランダ 連合王国	13回国際行動発達研究学会隔年会議発表及び生活環境心理学研究資料収集	6. 6.27 } 6. 7. 9	“
法 学 部	“	行 澤 一人	連合王国	契約法及び商取引における誠実性概念の比較研究	6. 6. 2 } 6. 6.13	“
経営学部	教 授	本 多 佑三	アメリカ合衆国	「日本の金融市場の現状」に関する国際研究会議に出席のため	6. 6. 7 } 6. 6.12	出 張
“	“	中 野 常男	“	財務会計思想史研究に関する史料収集及び意見交換	6. 6.18 } 7. 2.21	研 修
理 学 部	助教授	川 井 浩史	“	海藻類の採集と褐藻類の系統分類に関する共同研究	6. 6. 7 } 6. 6.14	“
“	“	野 崎 光昭	カナダ	超伝導スペクトロメータを用いた気球実験	6. 6.20 } 6. 7.25	出 張
“	“	川 井 浩史	中国	第5回国際藻類学会議出席	6. 6.25 } 6. 7. 3	“
“	教 授	佐々木 武	ポーランド ベルギー	アファイン微分幾何に関する研究	6. 6.25 } 6. 8. 3	研 修
医 学 部	助教授	谷 口 洋	大韓民国	糖尿病学に関する研究交換のため	6. 6. 9 } 6. 6.12	“
“	教 授	守 殿 貞夫	イタリア アメリカ合衆国	地中海化学療法学会出席ならびに尿路性器癌に関する研究交換のため	6. 6.12 } 6. 6.17	出 張
“	助 手	関 谷 善文	カナダ	第7回国際斜視学会（ISA）発表出席および眼科学に関する研究交換のため	6. 6.13 } 6. 6.25	研 修
“	“	置 村 康彦	アメリカ合衆国	第76回米国内分泌学会出席及び内分泌学に関する研究交換のため	6. 6.14 } 6. 6.22	“
“	教 授	西 塚 泰美	“	ノースウエスタン大学における細胞情報伝達に関する共同研究打合せのため	6. 6.16 } 6. 6.22	出 張
“	講 師	西 野 直樹	“	第19回国際神経精神薬理学会議出席および多文化間精神医学の諸問題についての意見交換のため	6. 6.23 } 6. 7. 3	研 修
“	助 手	白 川 治	“	“	“	“

医 学 部	講 師	植 本 雅治	フィリピン	精神医学に関する研究交換のため	6. 6.24 } 6. 6.27	研 修
“	教 授	山 本 節	カナダ	第27回国際眼科学会議出席及び眼科学に関する研究交換のため	6. 6.24 } 6. 7. 3	“
“	助 手	塚 原 康友	“	“	“	“
“	“	藤 澤 直子	“	“	“	“
“	助教授	黒 坂 昌弘	大韓民国	Hyung Hee大学関節鏡ワークショップ出席およびKyung pook国立大学での膝関節手術に関する研究交換のため	6. 6.30 } 6. 7. 4	“
工 学 部	教 授	中 前 勝彦	アメリカ合衆国	ゲルの刺激応答性に関する研究討論及び資料収集	6. 6. 2 } 6. 6.13	出 張
“	助教授	安 藤 四一	“	アメリカ音響学会出席及び研究打合せ	6. 6. 5 } 6. 6.13	“
“	教 授	羽根田 博正	“	産業エレクトロニクスにおける計算機制御工業に関する研究調査及び研究交換	6. 6. 7 } 6. 6.19	“
“	助教授	河 村 庄造	中華人民共和国	機械振動に関する国際会議出席及び研究交換・資料収集	6. 6.10 } 6. 6.19	“
“	助教授	安 達 和彦	“	回転機械力学に関する研究交換及び国際会議出席、研究資料収集	“	“
“	教 授	岩 壺 卓三	“	回転機械の振動に関する情報交換及び振動工学に関する国際会議出席	“	研 修
“	“	辻 文 三	スロバキア オーストリア	国際会議出席及び研究資料収集	6. 6.17 } 6. 6.27	出 張
“	助教授	大 谷 恭弘	スロバキア、ハンガリー、ルーマニア オーストリア	“	6. 6.17 } 6. 7. 3	“
“	“	田 中 嘉之	アメリカ合衆国	“	6. 6.18 } 6. 6.29	研 修
“	“	富 山 明男	“	“	6. 6.19 } 6. 6.25	出 張
“	文部技官	米 森 秀登	中華人民共和国 台湾、香港	IEEE-PESCパワーエレクトロニクス専門者国際会議、IEEE-SPECパワーエレクトロニクス回路に関する国際会議、IEEE-IPEMCパワーエレクトロニクスとモーションコントロールに関する国際会議に出席し、電気機器制御システムに関する研究情報交換及び調査	6. 6.20 } 6. 6.30	“
“	助教授	中 岡 睦雄	“	パワーエレクトロニクス専門者会議などの国際会議に出席し、電気機器制御システムに関する研究情報交換及び調査	“	“

工 学 部	教 授	羽根田 博正	サウジアラビア	サウジアラビア・リヤド電子技術学院事前調査	6. 6.24 6. 7. 6	出 張
"	助教授	池 田 裕二	アメリカ合衆国	国際会議出席及び研究資料収集	6. 5.21 6. 6.24	"
"	教 授	田 中 初 一	ノルウェー	1994年IEEE情報理論に関する国際シンポジウム出席	6. 6.25 6. 7. 3	"
"	"	富 田 佳 宏	中華人民共和国	工業塑性力学とその応用に関するシンポジウムに参加及び数値塑性力学の情報交換	6. 6.26 6. 7. 6	"
"	助教授	竹 中 信 幸	アメリカ合衆国	第3回核融合炉工学国際シンポジウムに参加し、資料収集	6. 6.26 6. 7. 3	研 修
農 学 部	助 手	阪 口 秀	"	粒状体の力学と統計物理に関する国際ワークショップ出席・発表及び粒状体流動の数値シミュレーションに関する研究交換	6. 6. 6 6. 6.18	出 張
"	教 授	相 菌 泰 生	チェコ共和国	第11回昆虫ステロイドホルモンワークショップ参加及び脳神経ペプチドホルモンの作用機構に関する研究交換	6. 6.26 6. 7. 9	"
"	"	大 川 秀 郎	アメリカ合衆国 ドイツ連邦共和国	(1)第8回国際純正応用化学連合農薬化学会議出席発表及び農薬生化学に関する研究交換 (2)国際純正応用化学連合バイオテクノロジー会議出席及び研究交換	6. 6.29 6. 7.13	"
自然科学 研 究 科	講 師	沼 昌 宏	"	第31回設計自動化会議出席及びシステム構成に関する資料収集のため	6. 6. 5 6. 6.13	"
"	助 手	趙 孟 佑	"	プラズマ力学学会出席・第30回合同推進機会会議出席及び高電圧宇宙システムの研究に関する情報交換のため	6. 6.19 6. 7. 2	"
"	"	小 川 和 彦	"	アメリカ航空宇宙学会・研究発表及びバルブ流体力学の意見交換のため	6. 6.17 6. 6.25	"
国際協力 研 究 科	助教授	楊 磊	中華人民共和国	地域政策に関する調査研究及び資料収集のため	6. 6. 3 6. 6.11	研 修
経済経営 研 究 所	"	延岡健太郎	ドイツ オランダ	MITインターナショナルモータービークルプログラムスポンサーコンファレンスにて発表及びそれに伴う企業訪問	6. 6.20 6. 6.26	"
医療技術 短期大学 部	教 授	磯 部 敬	フィンランド	骨髄腫とアミロイドーシスに関する研究交換及びレクチャーのため	6. 6.17 6. 6.28	"
留 学 生 センタ-	助教授	中 西 泰 洋	中華人民共和国	1994年日本留学フェア参加のため	6. 6.30 6. 7. 4	出 張

学 事

◇学位授与

6月22日(水)午前11時から、自然科学研究科大会議室において、博士(経済学)、博士(経営学)、博士(医学)、博士(学術)、博士(理学)、博士(工学)及び博士(農学)の学位授与式を行いました。

学位を授与された者の氏名、論文題目等は次のとおりです。

—庶務課—

[課程博士]



氏 名	学位の種類	授与年月日	論 文 題 目
三 浦 靖 史	博士(医 学)	6. 3. 31	Regulation of Morphology by <i>Rho</i> p21 and its Inhibitory GDP/GTP Exchange Protein (<i>Rho</i> GDI) in Swiss 3T3 Cells (<i>Rho</i> p21 とその GDP 解離抑制蛋白質 (<i>Rho</i> GDI) による Swiss 3T3 細胞の形態制御)
小 谷 圭	"	"	The Functional Domain Of The Stimulatory GDP/GTP Exchange Protein (<i>smg</i> GDS) Which Interacts With The C-Terminal Geranylgeranylated Region Of <i>rap</i> 1/K <i>rev</i> -1/ <i>smg</i> p21 (GDP/GTP 交換反応促進蛋白質 (<i>smg</i> GDS) のゲラニルゲラニル化された <i>rap</i> 1/K <i>rev</i> -1/ <i>smg</i> p21C 末端との結合部位の解析)
夜 久 英 明	"	"	The <i>Dbl</i> Oncogene Product as a GDP/GTP Exchange Protein for the <i>Rho</i> Family Its Properties in Comparison With Those Of <i>smg</i> GDS (低分子量GTP結合蛋白質 <i>Rho</i> ファミリーに対するGDP/GTP交換反応促進蛋白質としての <i>Dbl</i> 癌遺伝子産物と <i>smg</i> GDSとの比較解析)
梶 浦 祐 子	"	"	ストレプトゾトシン誘発糖尿病ラット網膜における Gamma-aminobutyric acid の変化
安 積 淳	"	"	1. Modulation of murine herpes simplex virus type 1 retinitis in the uninoculated eye by CD 4 ⁺ T lymphocytes (ウィルス非接種眼にみられるマウス1型単純ヘルペス網膜炎のCD 4 ⁺ Tリンパ球による修飾) 2. Spring of the ipsilateral retina following anterior chamber inoculation of HSV-1: Requirement for either CD 4 ⁺ or CD 8 ⁺ T cells (ウィルス接種眼にみられる網膜炎回避現象: CD 4 ⁺ T細胞もしくはCD 8 ⁺ T細胞の要求性)
村 岡 章 弘	"	"	C末端部除去変異体を用いたGLUT 1 蛋白の構造機能相関に関する研究

久島 健之	博士(医学)	6. 3. 31	NEW DEVELOPMENT OF INTEGRATED CT SIMULATION SYSTEM FOR RADIATION THERAPY PLANNING (放射線治療計画用CTシミュレーションシステムの開発)
米田 行宏	"	"	MRI Volumetry of Medial Temporal Lobe Structures in Amnesia Following Herpes Simplex Encephalitis (単純ヘルペス脳炎による側頭葉内側面損傷と記憶障害の関係: MRI体積計測による検討)
杉本 幸司	"	"	水溶性ヨード造影剤のdynamic CTにおける組織濃染度とその動態に関する実験的検討 -非イオン性モノマー型と高分子型の分子サイズからみた比較検討-
平 玲子	"	"	自閉症高危険児における母子愛着関係異常
竹島 泰弘	"	"	正常ラットおよびヒト下垂体前葉細胞ならびにヒトGH産生下垂体腺腫細胞の初代培養系におけるHis-D-Trp-Ala-Trp-D-Phe-Lys-NH ₂ (Growth hormone Releasing Peptide) の成長ホルモン分泌に及ぼす効果
平岡 邦彦	"	"	THE IMPORTANCE OF ADENOSINE METABOLISM IN IS-CHEMICALLY DAMAGED CANINE PANCREAS DURING PRESERVATION BY THE TWO-LAYER COLD STORAGE METHOD (温阻血腫の2層単純浸漬保存におけるアデノシン代謝の重要性)
久次米 啓一郎	"	"	Cu, Zn-SODの心筋保護効果に関する実験的並びに臨床的検討
野間 大路	"	"	カラードプラー法を用いた極小未熟児における脳血流速の検討
八木 規夫	"	"	NODマウス脾ラウ細胞におけるICAM-1の発現とその脾β細胞破壊における意義
林 聡子	"	"	「塩基性線維芽細胞成長因子 (Basic Fibroblast Growth Factor: bFGF) 過剰発現GH ₃ 細胞の樹立とその株における形態および内分泌機能上の変化」
伊藤 光宏	"	"	Functional Characterization of a Human Brain Cholecystokinin-B Receptor: A Trophic Effect of Cholecystokinin and Gastrin (ヒト・コレシストキニン-B/ガストリン受容体を介する細胞増殖作用の解析)
齋藤 実	"	"	Effect of mannose, fructose and lactate on the preservation of synaptic potentials in hippocampal slices (海馬切片のシナプス電位保持におけるマンノース, 果糖, 乳酸の効果)
原 賢太	"	"	Phosphoinositide (PI) 3-kinase p85 サブユニット上のPI3-kinase 活性結合部位の同定
加納 純一	"	"	Cross talk of dual-signal transduction systems in the regulation of DNA synthesis by parathyroid hormone in osteoblastic osteosarcoma cells (骨芽細胞様骨肉腫細胞のDNA合成調整に及ぼす副甲状腺ホルモンによる二岐の情報伝達機構の相互作用)

石川 朗宏	博士(医学)	6. 3. 31	Excitatory effects of adenosine receptor agonists and antagonists on neurotransmission in guinea pig superior collicular slices (モルモット上丘切片の神経伝達におけるアデノシン受容体作動薬および拮抗薬の興奮性効果)
松島 真司	"	"	Protein Kinase Cδ-and ε-subspecies in rat central nervous tissue; differential distribution and phorbol ester-induced redistribution in synaptosomes (ラット中枢神経組織中のプロテインキナーゼCδ及びε分子種について; 組織分布とシナプトソームにおけるホルボルエステルの刺激により誘起される局在変化)
田畑 知己	"	"	The Role of Ras Mutation in Pancreatic Cancer, Precancerous Lesions, and Chronic Pancreatitis (膵癌, 前癌病変と慢性膵炎におけるRas癌遺伝子突然変異の役割)
山田 至彦	"	"	Enhanced Therapeutic Effect on Murine Melanoma and Angiosarcoma Cells by Boron Neutron Capture Therapy Using a Boronated Metalloporphyrin (ホウ素化金属ポルフィリンを用いたホウ素熱中性子捕捉療法によるマウス悪性黒色腫と血管肉腫細胞に対する致死効果)
和田林 展年	"	"	Selective Boron Accumulation in Human Ocular Melanoma vs. Surrounding Eye Components after ¹⁰ B ₁ -p-Boronophenylalanine Administration: Prerequisite for Clinical Trial of Neutron Capture Therapy. (¹⁰ B ₁ -パラ-ボロノフェニルアラニン投与によるヒト眼部黒色腫および正常眼部組織へのホウ素集積性の比較: 熱中性子捕捉療法臨床適応の検討)
山西 輝也	博士(学術)	"	The Spin Structure of Nucleon and High Energy Reactions (核子のスピン構造と高エネルギー素粒子反応)
馬場 知哉	"	"	<i>Bacillus stearothermophilus</i> No.21の耐熱性キシラン分解酵素遺伝子群の構造と分子進化に関する研究
梅宮 弘光	"	"	川喜田煉七郎と日本の近代建築運動に関する研究
梁 敏鎬	"	"	韓国における老人問題と住居環境に関する研究
石丸 雄大	博士(理学)	"	Studies on Organometallic Aspects of Metalloporphyrin Chemistry Relevant to Heme Enzymatic Functions (ヘム酵素機能に関連した有機金属ポルフィリンの化学に関する研究)
松尾 則之	"	"	Evolution of Cooperative Behavior in Cross Roads Game (クロスロードゲームにおける協調性の獲得とその解析)
関 雅幸	"	"	Phase Transition Models of Geomagnetic Polarity Reversals (地磁気逆転の相転移モデル)
三浦 均	"	"	汎用CCDコントローラ-COGT-1の開発と試験観測

栗 原 昇	博士(工 学)	6. 3. 31	燃料液滴の乱流場における分散過程に関する研究
韓 尚 秀	"	"	STUDIES ON FUZZY MULTIOBJECTIVE SCHEDULING (ファジィ多目的スケジューリングに関する研究)
福 田 洋 司	"	"	低次聴覚系機構のニューラルネットによるモデル化
白 井 康 仁	博士(農 学)	"	カイコにおける前胸腺刺激ホルモンの分泌機構に関する研究

[論文博士]

氏 名	学位の種類	授与年月日	論 文 題 目
家 本 博 一	博士(経済学)	6. 3. 22	ポーランド経済体制の変革過程に関する研究 —第二次世界大戦後の変革過程について—
得 津 一 郎	博士(経営学)	6. 4. 13	企業の生産および投資決定に関する計量経済学的研究
畑 勝 也	博士(医 学)	6. 3. 22	External mechanical work during relaxation period does not affect myocardial oxygen consumption (弛緩期における外的仕事が心筋酸素消費量に及ぼす影響)
磯 村 光 男	"	"	Regulation of binding of <i>rho</i> B p20 to membranes by its spe- cific regulatory protein, GDP dissociation inhibitor (Rho蛋白質特異的GDP解離抑制蛋白質Rho GDIによるRho蛋白 質の細胞膜への結合の制御)
並 木 眞 理	"	"	家兎眼内レンズ移植術後の房水中塩基性線維芽細胞成長因子(bFGF) トランスフォーミング成長因子 α (TGF α) の定量
嘉 悦 博	"	"	術後鎮痛における硬膜外フェンタニールとモルヒネ持続投与の比較
藤 田 博 己	"	"	The Entry and Intracellular Multiplication of Francisella tularensis in Cultured Cells: Its Correlation with Virulence in Experimental Mice (野兎病菌の培養細胞における感染性と細胞内増殖性: マウスに対 する毒力との関係)
加 藤 紀 子	"	"	D ₂ -dopamine receptor-mediated inhibition of intracellular Ca ²⁺ mobilization and release of acetylcholine from guinea-pig neostriatal slices (モルモット新線条体スライスにおける細胞内カルシウム動員とア セチルコリン遊離に対するD ₂ ドパミン受容体を介する抑制)
三 木 高 憲	"	6. 4. 13	口腔領域における白板症および浸潤癌の超微形態学的研究
ワユニ ルキタ アトマジャ Wahyuni Lukita-Atmadja	"	"	GRANULOMA FORMATION IN THE LIVER OF BALB/C MICE INTOXICATED WITH CARBON TETRACHLORIDE (四塩化炭素障害Balb/cマウス肝における肉芽腫形成)

高 見 啓 二	博士(医 学)	6. 4. 13	A Further Study on the Left-Right Asymmetry of the Planum temporale (側頭平面の左右非対称性に関する再検討)
吉 川 恵 造	"	"	胃癌におけるEpidermal Growth Factor Receptor 発現の免疫組 織化学的および病理学的研究
長谷川 裕	"	6. 4. 27	インスリン依存型糖尿病 (IDDM) の発症予防に関する研究 —抗接着分子抗体を用いたNODマウス自己免疫性 IDDMの阻止—
三 好 麻 里	"	6. 5. 11	血清中Eosinophil Cationic Protein 濃度と小児気管支喘息患者の 予後との関連についての検討
日比野 省 三	博士(学 術)	6. 4. 22	思考のパラダイムシフトによるネオシステム設計論に関する研究
安 田 智 之	博士(理 学)	"	ON HIGH DIMENSIONAL RIBBON KNOTS (高次元リボン結び目について)
坂 本 真 一	博士(工 学)	"	柱梁接合部における梁端溶接部の構造性能に関する研究
平 野 雅 司	"	"	二流体モデルに基づく過渡気液二相流の差分解法に関する研究
河 野 良 之	"	"	電力系統解析・計画の計算機による支援に関する研究
角 陸 純 一	"	"	高強度鉄筋コンクリート部材中の重ね継手の力学的性状に関する研 究
谷 明 勲	"	"	建築構造物の耐震構造計画・制御へのファジィ理論の応用に関する 研究
西 垣 雅 司	"	"	液体振動型流量計内の流れ構造に関する研究
大 平 哲 也	"	"	2 ストローク内燃機関におけるガス流動特性と掃気流動のサイクル 変動に関する研究
三 輪 康 一	"	"	都市のインナーエリアにおける市街地変容と誘導的整備手法に関す る研究
芝 池 英 樹	"	"	建築壁体における熱・水分移動の境界要素解析に関する研究
宮 田 靖 久	"	"	吸放湿性を有する建物の熱・湿気性状に関する研究および磁気的研 究
藤 崎 泰 正	"	"	サーボ系の2自由度構成に関する研究

◇在籍学生数調（平成6年5月1日現在）

◎学 部

学 部 名	入 学 定 員	総 定 員	在 籍 者 数
文 学 部	115	520	551 (298)
国 際 文 化 学 部	140	280	280 (154)
発 達 科 学 部	280	560	556 (314)
教 育 学 部		840	937 (503)
法 学 部 昼間主コース	250 (30)	940	1,117 (319)
夜間主コース	40	40	40 (18)
第 二 課 程		300	349 (96)
3 年 次 編 入 学	20		
経済学部 昼間主コース	290 (20)	1,130	1,250 (187)
夜間主コース	40	40	40 (6)
第 二 課 程		300	348 (56)
3 年 次 編 入 学	20		
経営学部 昼間主コース	290 (30)	1,120	1,237 (205)
夜間主コース	50	100	99 (19)
第 二 課 程		210	249 (45)
理 学 部	165 (25)	660	718 (147)
医 学 部	100	600	612 (150)
工 学 部	650 (110)	2,570	2,874 (191)
農 学 部	185 (25)	740	759 (304)
合 計	2,635 (240)	10,950	12,016 (3,012)

（注）入学定員の（ ）は臨時増募を、在籍者数の（ ）は女子をそれぞれ内数で示す。
教育学部及び経営学部第二課程は平成5年度入試より募集停止。
法・経済学部各第二課程は平成6年度入試より募集停止。

◎大学院

研 究 科 名	修 士（博士前期）			博 士（博士後期）		
	入学定員	総 定 員	在籍者数	入学定員	総 定 員	在籍者数
文 学 研 究 科	50	100	95 (55)			
教 育 学 研 究 科	70	140	127 (59)			
法 学 研 究 科	57	115	75 (12)	23	69	56 (12)
経 済 学 研 究 科	43	88	28 (5)	26	78	44 (13)
経 営 学 研 究 科	56	112	106 (18)	29	84	50 (9)
理 学 研 究 科		50	91 (15)			
医 学 研 究 科				62	248	283 (53)
工 学 研 究 科		150	266 (11)			
農 学 研 究 科		58	71 (19)			
国 際 協 力 研 究 科	64	110	102 (51)			
文 化 学 研 究 科				13	39	93 (44)
自 然 科 学 研 究 科	449	449	482 (52)	69	161	218 (30)
合 計	789	1,372	1,443 (297)	222	679	744 (161)

（注）在籍者数の（ ）は、女子を内数で示す。
理学研究科・工学研究科・農学研究科は平成6年度入学式より募集停止

◎別 科

別 科 名	入 学 定 員	在 籍 者 数
養 護 教 諭 特 別 別 科	40	40 (40)

（注）在籍者数の（ ）は、女子を内数で示す。

◎発達科学部附属学校

学 校 名	学 級 数	在 籍 者 数
附 属 住 吉 小 学 校	18 (3)	648 (18)
附 属 明 石 小 学 校	12	467
附 属 住 吉 中 学 校	9 (3)	354 (33)
附 属 明 石 中 学 校	9	364
附 属 幼 稚 園	5	176
附 属 養 護 学 校	8	56
合 計	61 (6)	2,065 (51)

（注）1 学級数の（ ）は、帰国子女教育学級をを内数で示す。
2 在籍者の（ ）は、帰国子女を外数で示す。

◎医療技術短期大学部

学 科 名	入 学 定 員	総 定 員	在 籍 者 数
看 護 学 科	80	240	246 (243)
衛 生 技 術 学 科	40	120	123 (120)
理 学 療 法 学 科	20	60	74 (53)
作 業 療 法 学 科	20	60	71 (61)
合 計	160	480	514 (477)

（注）在籍者数の（ ）は、女子を内数で示す。



◇平成7年度入学者選抜方法等の決定

平成7年度神戸大学の入学者選抜方法を次のとおり決定しました。

なお、募集要項については、11月中旬までに決定します。

1 入 学 定 員

学部	学科等	入学定員	日程・募集人員		摘要
			前期日程	後期日程	
文学部	哲学	30	90	25	
	史学	30			
国際文化学部	文学	55	90	25	
	計	115			
国際文化学部	コミュニケーション学科	70	55	15	
	地域文化学科	70	55	15	
発達科学部	計	140	110	30	
	人間発達科学	120	86	20	
発達科学部	人間発達科学	100	26	10	[文系系小論文 受験コース 理系系 受験コース 理系系小論文 受験コース 音楽受験コース12 美術受験コース12 体育受験コース6]
	人間行動・表現学科	60			
発達科学部	計	280	187	63	
	法学部	250	170	80	
法学部	法律学科	40	10	5	
	法律学科	290	180	50	
経済学部	経済学科	40	20	10	前期日程に帰国女子特別選抜若干人を含む。
	経済学科	75	240	25	
経営学部	経営学科	75	240	25	前期日程に帰国女子特別選抜若干人を含む。
	経営学科	65	240	25	
経営学部	計	290	240	50	
	経営学部	20	20	20	
経営学部	経営学部	10	20	20	
	経営学部	10	20	20	
経営学部	計	50	20	20	
	経営学部	50	20	20	

注) 医学部の保健学科、及びその入学定員は関係法令等の改正をまって確定するもので平成6年10月1日から設置の予定。

学部	学科等	入学定員	日程・募集人員		摘要
			前期日程	後期日程	
理学部	数学科	30	22	8	
	物理学科	40	30	10	
	化学科	30	23	7	
	生物学科	20	12	8	
	地球惑星科学科	45	35	10	
	計	165	122	43	
医学部	医学科	100	80	20	修業年限 6年
	看護学専攻 保健 検査技術科学専攻 理学療法専攻 作業療法専攻 学科	80	60	20	専攻ごとに 募集し選抜 する。
		40	30	10	
		20	15	5	
		20	15	5	
	計	160	120	40	
工学部	建設学科	180	150	30	
	電気電子工学科	110	85	25	
	機械工学科	120	100	20	
	応用化学科	120	100	20	
	情報知能工学科	120	90	30	
	計	650	525	125	
農学部	応用動物学科	27	21	6	
	植物資源学科	45	36	9	
	生物環境制御学科	41	33	8	
	生物機能化学科	42	34	8	
	生産環境情報学科	30	24	6	
	計	185	148	37	
合計		2755	2022	598	
		推薦入学		95	
		社会人特別選抜		40	

入学者選抜方法等(一般選抜)

選抜方法等 学部・学科名	個別学力検査を課する	実技検査を課する	面接 小論文を課する	2段階選抜 主として、調査書の内容と大学入試センター試験の成績により第1段階選抜を行い、その合格者について更に必要な検査等を行う	定員 入学にかじつ個別学力検査を課する	定員一部留保第2次募集 定員の一部についてあらかじめこれを留保し、これにて第2次募集を行う	個別学力検査を課する	実技検査を課する	面接 小論文を課する	第2次募集 小論文を課する	個別学力検査を課する	別学力検査の日程	備考 (欠員の補充の方法等)
文学部	前期日程	○	×	○	約4.5倍	×	×	×	×	×	×	前期日程 2月25日	◎欠員の補充について追加合格により実施する。
文学部	後期日程	○	×	○	約10倍	×	×	×	×	×	×	2月26日	
国際文化学部	前期日程	○	×	○	約4.5倍	×	×	×	×	×	×	2月27日	
国際文化学部	後期日程	○	×	○	約10倍	×	×	×	×	×	×	(注1)	
発達科学部	前期日程	○	×	○	約4.5倍	×	×	×	×	×	×	後期日程 3月12日	
発達科学部	後期日程	○	×	○	約10倍	×	×	×	×	×	×	3月13日	
法学部	前期日程	×	×	○	約4.5倍	×	×	×	×	×	×	(注2)	
法学部	後期日程	×	×	○	約5倍	×	×	×	×	×	×	(注3)	
人間主コース	前期日程	○	×	○	約10倍	×	×	×	×	×	×	(注4)	
人間主コース	後期日程	○	×	○	約10倍	×	×	×	×	×	×	(注5)	
経済学部	前期日程	○	×	○	約4.5倍	×	×	×	×	×	×	×	◎欠員の補充について追加合格により実施する。
経済学部	後期日程	○	×	○	約10倍	×	×	×	×	×	×	×	
人間主コース	前期日程	○	×	○	約4.5倍	×	×	×	×	×	×	×	
人間主コース	後期日程	○	×	○	約10倍	×	×	×	×	×	×	×	
経営学部	前期日程	○	×	○	約4.5倍	×	×	×	×	×	×	×	
経営学部	後期日程	○	×	○	約10倍	×	×	×	×	×	×	×	
人間主コース	前期日程	○	×	○	約4.5倍	×	×	×	×	×	×	×	
人間主コース	後期日程	○	×	○	約10倍	×	×	×	×	×	×	×	
理学部	前期日程	○	×	○	約4.5倍	×	×	×	×	×	×	×	
理学部	後期日程	○	×	○	約10倍	×	×	×	×	×	×	×	
医学部	前期日程	○	×	○	約4.5倍	×	×	×	×	×	×	×	◎欠員の補充について追加合格により実施する。
医学部	後期日程	○	×	○	約10倍	×	×	×	×	×	×	×	
看護学部	前期日程	○	×	○	約4.5倍	×	×	×	×	×	×	×	
看護学部	後期日程	○	×	○	約10倍	×	×	×	×	×	×	×	
検査技術科学専攻	前期日程	○	×	○	約6倍	×	×	×	×	×	×	×	
検査技術科学専攻	後期日程	○	×	○	約10倍	×	×	×	×	×	×	×	
理学療法専攻	前期日程	○	×	○	約6倍	×	×	×	×	×	×	×	
理学療法専攻	後期日程	○	×	○	約10倍	×	×	×	×	×	×	×	
作業療法専攻	前期日程	○	×	○	約4.5倍	×	×	×	×	×	×	×	
作業療法専攻	後期日程	○	×	○	約10倍	×	×	×	×	×	×	×	
工学部	前期日程	○	×	○	約4.5倍	×	×	×	×	×	×	×	◎欠員の補充について追加合格により実施する。
工学部	後期日程	○	×	○	約10倍	×	×	×	×	×	×	×	
農学部	前期日程	○	×	○	約4.5倍	×	×	×	×	×	×	×	
農学部	後期日程	○	×	○	約10倍	×	×	×	×	×	×	×	
農学部	前期日程	○	×	○	約4.5倍	×	×	×	×	×	×	×	
農学部	後期日程	○	×	○	約10倍	×	×	×	×	×	×	×	
農学部	前期日程	○	×	○	約4.5倍	×	×	×	×	×	×	×	
農学部	後期日程	○	×	○	約10倍	×	×	×	×	×	×	×	
農学部	前期日程	○	×	○	約4.5倍	×	×	×	×	×	×	×	
農学部	後期日程	○	×	○	約10倍	×	×	×	×	×	×	×	

各欄の○印は該当するものを、×印は該当しないものを表わす。
(注1) 全学科に課す。
(注2) 人間行動・表現学科に課す。
(注3) 人間環境科学の理科系数学受験コースに課す。
(注4) 人間行動・表現学科に課す。
(注5) 人間発達科学及び人間環境科学の文系系小論文受験コース、理科系小論文受験コースに課す。
(注6) 物理学及び地球惑星科学を志望する者に対して課す。
(注7) 発達科学部(人間行動・表現学科)の実技検査は、前期日程2月26日・2月27日、後期日程3月12日・3月13日に実施する。
(注8) 経営学部夜間主コース(前期日程)のセンター試験の成績は、理科を除く4教科のうち高得点の2教科の成績を用いる。
(注9) 経営学部夜間主コース、経営学部夜間主コースは、前期日程2月25日、後期日程3月12日に実施する。

入学者選抜方法等（特別選抜）

選抜方法等		推薦入学生				外国人、 社会のため 別選抜	社会 の特	備 考 (欠員の補充の方法等)	
		推薦入学生		学					
		入学定員の一部について、出身学校長の推薦に基づき、 学力検査を免除し調査書を主な資料として判定する		推薦入学生					
学部・学科名	個別学力検査を免除し、 大学入試センター試験を課する	個別学力検査及び大学 入試センター試験を免除する	実技検査を課する	面接を行う	小論文を課する	その他	募集人員	帰国子女 中国留学者等 外国人女子	社会 人
	前期日程 後期日程	前期日程 後期日程	前期日程 後期日程	前期日程 後期日程	前期日程 後期日程	前期日程 後期日程	前期日程 後期日程	前期日程 後期日程	前期日程 後期日程
文学部	×	×	×	×	×	×	×	×	×
国際文化学部	×	×	×	×	×	×	×	×	×
発達科学部	×	×	×	×	×	×	×	×	○
法学部	×	×	×	×	×	×	×	×	×
法学部 法学コース	○	×	×	○	×	×	15人	×	○
経済学部	○	×	×	×	×	×	60人	○ ×	×
経済学部 経済コース	○	×	×	○	×	×	10人	×	×
経営学部	×	×	×	×	×	×	×	○ ×	×
経営学部 経営コース	○	×	×	○	×	×	10人	×	×
理学部	×	×	×	×	×	×	×	×	×
医学部	×	×	×	×	×	×	×	×	×
看護学部	×	×	×	×	×	×	×	×	×
保健学部	×	×	×	×	×	×	×	×	×
健康学部	×	×	×	×	×	×	×	×	×
理学部	×	×	×	×	×	×	×	×	×
工学部	×	×	×	×	×	×	×	×	×
農学部	×	×	×	×	×	×	×	×	×

特別選抜方法（推薦入学）

実施学部・学科名	経済学部 昼間主コース
募集人員	60人
選抜期日 選抜方法	高等学校長の推薦に基づき、推薦書、調査書及び自己推薦書の内容、大学入試センター試験の成績、健康診断の結果を総合して入学者の選抜を行う。 個別学力検査等は免除する。
出願期間	平成6年12月15日（木）から平成6年12月22日（木）まで。（締切当日の消印有効）
出願要件	1 推薦の要件 高等学校を平成6年3月卒業又は平成7年3月卒業見込みの者で、次の各号に該当し、学力のみならず人物、能力、資質等において特に優れ、高等学校長が責任をもって推薦する者。 (1) 調査書の評定平均値の平均が4.0以上の者 (2) 平成7年度大学入試センター試験の5教科を受験する者 (3) 合格した場合、必ず入学することを確約できる者 2 推薦人員 各高等学校から推薦できる者は、1校当たり2人以内とする。
その他	1 合格発表 平成7年2月10日（金）午後1時 2 学生募集要項請求方法 募集要項（平成6年11月中旬発表予定）は、経済学部学生掛（〒657 神戸市灘区六甲台町2-1）において交付する。 郵便により請求する場合は、封筒に必ず「経済学部昼間主コース推薦入学募集要項請求」と朱書きし、受信者の住所、氏名、郵便番号を明記のうえ、郵便切手270円を貼付した返信用封筒（角型2号、幅24.0cm×長さ33.2cm）を同封して請求すること。

実施学部・学科名	法学部 夜間主コース
募集人員	15人
選抜期日 選抜方法	高等学校長の推薦に基づき、推薦書、調査書の内容、大学入試センター試験の成績、面接及び健康診断の結果を総合して入学者の選抜を行う。 個別学力検査は免除する。 面接期日 平成7年1月6日（金）
出願期間	平成6年12月15日（木）から平成6年12月22日（木）まで。（締切当日の消印有効）
出願要件	1 推薦の要件 高等学校を平成6年3月以降に卒業した者及び平成7年3月卒業見込みの者で、次の各号に該当し、学力のみならず人物、能力、資質等において特に優れ、高等学校長が責任をもって推薦する者。 (1) 調査書の評定平均値の平均が4.0以上の者 (2) 大学入試センター試験の理科を除く4教科のうち1教科を選択受験する者 (3) 在学中定職に就き勉学する者 (4) 合格した場合、必ず入学することを確約できる者 2 推薦人員 各高等学校から推薦できる者は、1校当たり3人以内とする。
その他	1 合格発表 平成7年2月10日（金）午後1時 2 学生募集要項請求方法 募集要項（平成6年11月中旬発表予定）は、法学部第二課程掛（〒657 神戸市灘区六甲台町2-1）において交付する。 郵便により請求する場合は、封筒に必ず「法学部夜間主コース推薦入学募集要項請求」と朱書きし、受信者の住所、氏名、郵便番号を明記のうえ、郵便切手270円を貼付した返信用封筒（角型2号、幅24.0cm×長さ33.2cm）を同封して請求すること。 3 その他 推薦による入学希望者の結果不合格になった者で、法学部夜間主コースの一般選抜の受験を希望する者は、改めて出願手続を行うこと。この場合、大学入試センター試験は法学部が指定した4教科を受験していなければならない。

実施学部 ・学科名	経済学部夜間主コース
募集人員	10人
選抜期日	高等学校長の推薦に基づき、推薦書、調査書の内容、大学入試センター試験の成績、面接及び健康診断の結果を総合して入学者の選抜を行う。
選抜方法	個別学力検査は免除する。 面接期日 平成7年1月6日(金)
出願期間	平成6年12月15日(木) から平成6年12月22日(木) まで。(締切当日の消印有効)
出願要件	1 推薦の要件 高等学校を卒業した者及び平成7年3月卒業見込みの者で、次の各号に該当し、学力のみならず人物、能力、資質等において特に優れ、高等学校長が責任をもって推薦する者。 (1) 調査書の評定平均値の平均が4.0以上の者 (2) 平成7年度大学入試センター試験の数学又は英語を受験する者 (3) 在学中定職に就き勉学する者 (4) 合格した場合、必ず入学することを確約できる者 2 推薦人員 各高等学校から推薦できる者は、1校当たり2人以内とする。
その他	1 合格発表 平成7年2月10日(金) 午後1時 2 学生募集要項請求方法 募集要項(平成6年11月中旬発表予定)は、経済学部第二課程掛(〒657 神戸市灘区六甲台町2-1)において交付する。 郵便により請求する場合は、封筒に必ず「経済学部夜間主コース推薦入学募集要項請求」と朱書きし、受信者の住所、氏名、郵便番号を明記のうえ、郵便切手270円を貼付した返信用封筒(角型2号、幅24.0cm×長さ33.2cm)を同封して請求すること。 3 特別選抜に不合格になった者の取扱い 推薦による入学希望者の結果不合格になった者で、経済学部夜間主コースの一般選抜の受験を希望する者は、改めて出願手続を行うこと。この場合、大学入試センター試験は経済学部が指定した4教科を受験していただかなければならない。

特別選抜方法(帰国子女特別選抜)

実施学部 ・学科名	経済学部昼間主コース										
募集人員	若干人										
選抜期日	入学希望者は、筆記試験、面接及び健康診断の結果を総合して行う。 (1) 基礎的学力と日本語の熟達度を判定するために、次のとおり筆記試験及び面接を行う。										
選抜方法	<table><tr><td>期 日</td><td>筆記試験及び面接</td><td>時 間</td></tr><tr><td rowspan="3">平成6年12月7日(木)</td><td>数 学</td><td>9:30～10:30</td></tr><tr><td>小 論</td><td>10:40～11:40</td></tr><tr><td>面 接</td><td>13:30～</td></tr></table> (注) 小論文については出題は英語で、解答は日本語で行う。	期 日	筆記試験及び面接	時 間	平成6年12月7日(木)	数 学	9:30～10:30	小 論	10:40～11:40	面 接	13:30～
期 日	筆記試験及び面接	時 間									
平成6年12月7日(木)	数 学	9:30～10:30									
	小 論	10:40～11:40									
	面 接	13:30～									
出願期間	(2) 健康診断 健康診断書により行う。なお、精密検査を必要と認めた者に対しては、別途通知する。 平成6年11月1日(火) から平成6年11月10日(木) 午後5時までに必着のこと。										
出願要件	日本国籍を有する者で、次の各号のいずれかに該当する者。 (1) 外国において、学校教育における12年の課程(日本における通常の課程による学校教育の期間を含む。)を平成5年4月1日から平成7年3月31日までに卒業(修了)した者及び卒業(修了)見込みの者。ただし、外国において、最終学年を含めて3年以上継続して学校教育を受けていること。 (2) 中学校・高等学校又は中学校・高等学校相当課程を通じ3年以上外国の学校で教育を受け、日本の高等学校在籍が1年以内であり、かつ、平成6年4月1日から平成7年3月31日までに日本又は外国の高等学校(又は高等学校相当課程)を卒業(修了)した者及び卒業(修了)見込みの者。 (3) 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局から、国際バカロレア資格証書を平成5年度及び平成6年度に授与された者で、平成7年3月31日までに18歳に達する者。 ただし、外国において、最終学年を含めて3年以上継続して学校教育を受けていること。 (注) 外国に設置されたものであっても、日本の学校教育法に準拠した教育を施している学校に在学した者については、その期間を外国において学校教育を受けたものとみなさない。										
その他	1 合格発表 平成6年12月22日(木) 午後3時 2 学生募集要項請求方法 募集要項(平成6年7月下旬発表予定)は、経済学部学生掛(〒657 神戸市灘区六甲台町2-1)において交付する。 郵便により請求する場合は、封筒に必ず「経済学部外国学校出身者学生募集要項請求」と朱書きし、受信者の住所、氏名、郵便番号を明記のうえ、郵便切手270円を貼付した返信用封筒(角型3号、幅21.6cm×長さ27.7cm)を同封して請求すること。 ただし、受信者が外国に居住する場合には、航空郵便状130g料金相当の国際郵便を同封のこと。										

実施学部 ・学科名	経営学部夜間主コース
募集人員	10人
選抜期日	高等学校長の推薦に基づき、推薦書、調査書の内容、大学入試センター試験の成績、面接及び健康診断の結果を総合して入学者の選抜を行う。
選抜方法	個別学力検査は免除する。 面接期日 平成7年1月6日(金)
出願期間	平成6年12月15日(木) から平成6年12月22日(木) まで。(締切当日の消印有効)
出願要件	1 推薦の要件 高等学校を平成6年3月卒業した者又は平成7年3月卒業見込みの者で、次の各号に該当し、学力のみならず人物、能力、資質等において特に優れ、高等学校長が責任をもって推薦する者。 (1) 調査書の評定平均値の平均が4.0以上の者 (2) 平成7年度大学入試センター試験の理科を除く4教科のうち、外国語を含む2教科を選択受験する者 (3) 合格した場合、必ず入学することを確約できる者 2 推薦人員 各高等学校から推薦できる者は、1校当たり2人以内とする。
その他	1 合格発表 平成7年2月10日(金) 午後1時 2 学生募集要項請求方法 募集要項(平成6年11月中旬発表予定)は、経営学部第二課程掛(〒657 神戸市灘区六甲台町2-1)において交付する。 郵便により請求する場合は、封筒に必ず「経営学部夜間主コース推薦入学募集要項請求」と朱書きし、受信者の住所、氏名、郵便番号を明記のうえ、郵便切手390円を貼付した返信用封筒(角型2号、幅24.0cm×長さ33.2cm)を同封して請求すること。 3 特別選抜に不合格になった者の取扱い 推薦による入学希望者の結果不合格になった者で、経営学部夜間主コースの一般選抜の受験を希望する者は、改めて出願手続を行うこと。この場合、後期日程志願者は経営学部が指定した大学入試センター試験4教科のすべてを受験していただかなければならない。

実施学部 ・学科名	経営学部昼間主コース
募集人員	若干人
選抜期日	入学希望者は、筆記試験(英語)、面接及び健康診断の結果を総合して行う。 期 日 平成6年12月7日(木)
選抜方法	健康診断は、健康診断書により行う。なお、精密検査を必要と認めた者に対しては、別途通知する。
出願期間	平成6年11月1日(火) から平成6年11月10日(木) 午後5時までに必着のこと。
出願要件	日本国籍を有する者で、両親等保護者の海外における就業によって、共に外国に在留し、次の各号のいずれかに該当する者。 (1) 外国において、学校教育における12年の課程(日本における通常の課程による学校教育の期間を含む。)を平成5年4月1日から平成7年3月31日までに卒業(修了)した者及び卒業(修了)見込みの者。 ただし、外国において、最終学年を含めて2年以上継続して学校教育を受けていること。 (2) 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局から、国際バカロレア資格証書を平成5年度及び平成6年度に授与された者で、平成7年3月31日までに18歳に達する者。 (注) 外国に設置されたものであっても、日本の学校教育法に準拠した教育を施している学校に在学した者については、その期間を外国において学校教育を受けたものとみなさない。
その他	1 合格発表 平成6年12月22日(木) 午後3時 2 学生募集要項請求方法 募集要項(平成6年7月下旬発表予定)は、経営学部教務学生掛(〒657 神戸市灘区六甲台町2-1)で交付する。 郵便により請求する場合は、封筒に必ず「経営学部帰国子女特別選抜学生募集要項請求」と朱書きし、受信者の住所、氏名、郵便番号を明記のうえ、郵便切手190円を貼付した返信用封筒(角型3号、幅21.6cm×長さ27.7cm)を同封して請求すること。 ただし、志願者が外国に居住する場合は、必ず国内の連絡者を通じて請求すること。

実施学部・学科名	発 達 科 学 部		
募集人員	人間発達科学科、人間環境科学科、人間行動・表現学科		
選抜期日 選抜方法	人間発達科学科14人を限度、人間環境科学科10人を限度、人間行動・表現学科6人を限度 入学者選抜は、出願書類、筆記試験（英語・小論文）、面接（口頭試問）及び健康診断の結果を総合して行う。		
	期 日	英 語 ・ 小 論 文 面 接（口 頭 試 問）	平成6年11月16日（水） 平成6年11月17日（木）
出願期間	平成6年10月24日（月）から平成6年10月28日（金）まで。（締切当日の消印有効）		
出願要件	入学時に社会人（主婦を含む）としての経験を5年以上有し、満23歳以上になる者で、次の各号のいずれかに該当する者。 1. 高等学校を卒業した者 2. 通常の課程による12年の学校教育を修了した者 3. 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部大臣の指定した者 4. 文部大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者 5. 文部大臣の指定した者 6. 大学入学資格検定規程により文部大臣の行う大学入学資格検定に合格した者 7. その他大学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力がある者と認めた者 （注）大学・短大・高専・専門学校等昼間課程在学期間は、社会人期間に含めない。		
そ の 他	1 合格発表 平成6年12月2日（金）午前10時 2 学生募集要項請求方法 募集要項（平成6年9月中旬発表予定）は、発達科学部学生掛（〒657 神戸市灘区鶴甲3丁目11）において交付する。 郵便により請求する場合は、封筒に必ず「発達科学部社会人特別選抜募集要項請求」と朱書きし、受信者の住所、氏名、郵便番号を明記のうえ、郵便切手390円を貼付した返信用封筒（角型2号、幅24.0cm×長さ33.2cm）を同封して請求すること。		

実施学部 ・学科名	法学部 夜間主コース	
募集人員	10人	
選抜期日 選抜方法	期 日 平成6年11月9日（水）	
出願期間	入学者選抜は、調査書、志望理由書等の内容、英語の筆記試験、面接及び健康診断の結果を総合して行う。 平成6年10月20日（木）から平成6年10月26日（水）まで。（締切当日の消印有効）	
出願要件	入学時に満23歳以上になる者で、社会人期間5年以上を有し、次の各号のいずれかに該当する者。 1. 高等学校を卒業した者及び卒業見込みの者 2. 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び修了見込みの者 3. 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者及び修了見込みの者又はこれに準ずる者で文部大臣の指定した者 4. 文部大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び修了見込みの者 5. 文部大臣の指定した者 6. 大学入学資格検定規程により文部大臣の行う大学入学資格検定に合格した者及び合格見込みの者 （注）大学・短大・高専・専門学校等昼間課程在学期間は、社会人期間に含めない。	
その他	1 合格発表 平成6年11月18日（金）午後2時 2 学生募集要項請求方法 募集要項（平成6年8月下旬発表予定）は、法学部第二課程掛（〒657 神戸市灘区六甲台町2-1）において交付する。 郵便により請求する場合は、封筒に必ず「法学部夜間主コース社会人特別選抜募集要項請求」と朱書きし、受信者の住所、氏名、郵便番号を明記のうえ、郵便切手390円を貼付した返信用封筒（角型2号、幅24.0cm×長さ33.2cm）を同封して請求すること。	

[illegible]

【前期日程】

学部(学科, 専攻等)名		入学志願者に解答させる 教科・科目名等	選抜の 対象	大学入試センター試験で入学志願者に 解答させる教科・科目名	個 等 の 教 科 ・ 学 科 ・ 力 学 科 ・ 検 査 等	大学入試センター 試験の利用方法	そ の 他
発達科学部	人間発達科学科	文科系の教科・科目で受験する場合	一般選抜 の全部	国 (倫, 日, 世, 地理から1) ただし, 高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外の者は上記の科目にかえて「現代社会」を選択できる。	国(国語Ⅰ, 国語Ⅱ) 数(代数・幾何, 基礎解析, 微分・積分, 確率・統計) 外[英(英Ⅱ, 英ⅡB, 英ⅡC), 独, 仏から1]	個別学力検査等の出題方法について 国語: 2科目を同一時間内に解答させる。 数学: 2科目を同一時間内に解答させる。 外国語: 英語は, 3科目を同一時間内に解答させる。 外国語: 英語は, 3科目を同一時間内に解答させる。	個別学力検査等の出題方法について 国語: 2科目を同一時間内に解答させる。 数学: 2科目を同一時間内に解答させる。 外国語: 英語は, 3科目を同一時間内に解答させる。 外国語: 英語は, 3科目を同一時間内に解答させる。
		理科系の教科・科目で受験する場合			数(代数・幾何, 基礎解析, 微分・積分, 確率・統計) 理(物, 化, 生, 地球から2) 外[英(英Ⅱ, 英ⅡB, 英ⅡC), 独, 仏から1]		
	人間環境科学科	文科系受験コース		数(「数Ⅰ」と「数Ⅱ」) ただし, 高等学校において「簿記会計」「工業」を修得した者又は文部大臣の指定を受けた現職学校高等課程の修了(見込み)者は「数Ⅱ」にかえて「簿記会計」か「工業」を選択できる。	国(国語Ⅰ, 国語Ⅱ) 数(代数・幾何, 基礎解析, 微分・積分, 確率・統計) 外[英(英Ⅱ, 英ⅡB, 英ⅡC), 独, 仏から1]	「大学入試センター試験及び個別学力検査等の教科別配点」を参照すること。	個別学力検査等の出題方法について 国語: 2科目を同一時間内に解答させる。 数学: 2科目を同一時間内に解答させる。 外国語: 英語は, 3科目を同一時間内に解答させる。 外国語: 英語は, 3科目を同一時間内に解答させる。
		理科系受験コース			数(代数・幾何, 基礎解析, 微分・積分, 確率・統計) 理(物, 化, 生, 地球から2) 外[英(英Ⅱ, 英ⅡB, 英ⅡC), 独, 仏から1]		
	人間行動・表現科学科	音楽受験コース		理(物, 化, 生, 地球から1) ただし, 高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外の者は上記の科目にかえて「理科Ⅰ」を選択できる。	国(国語Ⅰ, 国語Ⅱ) 数(代数・幾何, 基礎解析, 微分・積分, 確率・統計) 外[英(英Ⅱ, 英ⅡB, 英ⅡC), 独, 仏から1]	個別学力検査等の出題方法について 国語: 2科目を同一時間内に解答させる。 数学: 2科目を同一時間内に解答させる。 外国語: 英語は, 3科目を同一時間内に解答させる。 外国語: 英語は, 3科目を同一時間内に解答させる。	個別学力検査等の出題方法について 国語: 2科目を同一時間内に解答させる。 数学: 2科目を同一時間内に解答させる。 外国語: 英語は, 3科目を同一時間内に解答させる。 外国語: 英語は, 3科目を同一時間内に解答させる。
		美術受験コース			国(国語Ⅰ, 国語Ⅱ) 数(代数・幾何, 基礎解析, 微分・積分, 確率・統計) 外[英(英Ⅱ, 英ⅡB, 英ⅡC), 独, 仏から1]		
	体育受験コース	理科系の教科・科目で受験する場合		外(英, 独, 仏から1)	国(国語Ⅰ, 国語Ⅱ) 数(代数・幾何, 基礎解析, 微分・積分, 確率・統計) 理(物, 化, 生, 地球から2) 外[英(英Ⅱ, 英ⅡB, 英ⅡC), 独, 仏から1]	個別学力検査等の出題方法について 国語: 2科目を同一時間内に解答させる。 数学: 2科目を同一時間内に解答させる。 外国語: 英語は, 3科目を同一時間内に解答させる。 外国語: 英語は, 3科目を同一時間内に解答させる。	個別学力検査等の出題方法について 国語: 2科目を同一時間内に解答させる。 数学: 2科目を同一時間内に解答させる。 外国語: 英語は, 3科目を同一時間内に解答させる。 外国語: 英語は, 3科目を同一時間内に解答させる。

《注 意》備考を参照すること。

【前期日程】

学部(学科, 専攻等)名		入学志願者に解答させる 教科・科目名等	選抜の 対象	大学入試センター試験で入学志願者に 解答させる教科・科目名	個 等 の 教 科 ・ 学 科 ・ 力 学 科 ・ 検 査 等	大学入試センター 試験の利用方法	そ の 他
理学部	数 学 科	数 学 科	一般選抜 の全部	国 (倫, 日, 世, 地理から1) ただし, 高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外の者は上記の科目にかえて「現代社会」を選択できる。	数(代数・幾何, 基礎解析, 微分・積分, 確率・統計) 理(物, 化, 生, 地球から2) 外[英(英Ⅱ, 英ⅡB, 英ⅡC), 独, 仏から1]	「大学入試センター試験及び個別学力検査等の教科別配点」を参照すること。	個別学力検査等の出題方法について 国語: 2科目を同一時間内に解答させる。 数学: 2科目を同一時間内に解答させる。 外国語: 英語は, 3科目を同一時間内に解答させる。 外国語: 英語は, 3科目を同一時間内に解答させる。
		数 学 科			数(代数・幾何, 基礎解析, 微分・積分, 確率・統計) 理(物, 化, 生, 地球から2) 外[英(英Ⅱ, 英ⅡB, 英ⅡC), 独, 仏から1]		
	物 理 学 科	物 理 学 科		数(「数Ⅰ」と「数Ⅱ」) ただし, 高等学校において「簿記会計」「工業」を修得した者又は文部大臣の指定を受けた現職学校高等課程の修了(見込み)者は「数Ⅱ」にかえて「簿記会計」か「工業」を選択できる。	数(代数・幾何, 基礎解析, 微分・積分, 確率・統計) 理(物, 化, 生, 地球から2) 外[英(英Ⅱ, 英ⅡB, 英ⅡC), 独, 仏から1]	「大学入試センター試験及び個別学力検査等の教科別配点」を参照すること。	個別学力検査等の出題方法について 国語: 2科目を同一時間内に解答させる。 数学: 2科目を同一時間内に解答させる。 外国語: 英語は, 3科目を同一時間内に解答させる。 外国語: 英語は, 3科目を同一時間内に解答させる。
		物 理 学 科			数(代数・幾何, 基礎解析, 微分・積分, 確率・統計) 理(物, 化, 生, 地球から2) 外[英(英Ⅱ, 英ⅡB, 英ⅡC), 独, 仏から1]		
	地 球 惑 星 科 学 科	地 球 惑 星 科 学 科		理(物, 化, 生, 地球から1) ただし, 高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外の者は上記の科目にかえて「理科Ⅰ」を選択できる。	数(代数・幾何, 基礎解析, 微分・積分, 確率・統計) 理(物, 化, 生, 地球から2) 外[英(英Ⅱ, 英ⅡB, 英ⅡC), 独, 仏から1]	「大学入試センター試験及び個別学力検査等の教科別配点」を参照すること。	個別学力検査等の出題方法について 国語: 2科目を同一時間内に解答させる。 数学: 2科目を同一時間内に解答させる。 外国語: 英語は, 3科目を同一時間内に解答させる。 外国語: 英語は, 3科目を同一時間内に解答させる。
		地 球 惑 星 科 学 科			数(代数・幾何, 基礎解析, 微分・積分, 確率・統計) 理(物, 化, 生, 地球から2) 外[英(英Ⅱ, 英ⅡB, 英ⅡC), 独, 仏から1]		
工学部	物 理 学 部	物 理 学 部	一般選抜 の全部	外(英, 独, 仏から1)	数(代数・幾何, 基礎解析, 微分・積分, 確率・統計) 理(物, 化, 生, 地球から2) 外[英(英Ⅱ, 英ⅡB, 英ⅡC), 独, 仏から1]	「大学入試センター試験及び個別学力検査等の教科別配点」を参照すること。	個別学力検査等の出題方法について 国語: 2科目を同一時間内に解答させる。 数学: 2科目を同一時間内に解答させる。 外国語: 英語は, 3科目を同一時間内に解答させる。 外国語: 英語は, 3科目を同一時間内に解答させる。
		物 理 学 部			数(代数・幾何, 基礎解析, 微分・積分, 確率・統計) 理(物, 化, 生, 地球から2) 外[英(英Ⅱ, 英ⅡB, 英ⅡC), 独, 仏から1]		

《注 意》備考を参照すること。

【前期日程】

学部(学科, 専攻等)名	入学志願者に解答させる 教科・科目名等	選抜の 対象	大学入試センター試験で入学志願者に 解答させる教科・科目名	個 等 の 教 科 ・ 学 力 検 査 目 等	大学入試センター 試験の利用方法	そ の 他
法学部 夜間主コース			国 社(倫, 日, 世, 地理から1) ただし, 高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外の者は上記の科目にかえて「現代社会」を選択できる。	国【国語Ⅰ(漢文を除く), 国語Ⅱ(漢文を除く)】		個別学力検査等の出題方法について 国語: 2科目合わせて出題し, 同一時間内に解答させる。
経済学部 夜間主コース		一般選抜 の全部	数(「数Ⅰ」と「数Ⅱ」) ただし, 高等学校において「簿記会計」「工業数理」を修得した者又は文部大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了(見込み)者は「数Ⅱ」にかえて「簿記会計」か「工業数理」を選択できる。 外(英, 独, 仏から1) 社(倫, 日, 世, 地理)又は理(物, 化, 生, 地学)から1 ただし, 高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外の者は上記の科目にかえて「現代社会」を, 理科の科目にかえて「理科Ⅰ」を選択できる。	個別学力検査等は課さない	「大学入試センター試験及び個別学力検査等の教科別配点」を参照すること。	

《注意》備考を参照すること。

【前期日程】

学部(学科, 専攻等)名	入学志願者に解答させる 教科・科目名等	選抜の 対象	大学入試センター試験で入学志願者に 解答させる教科・科目名	個 等 の 教 科 ・ 学 力 検 査 目 等	大学入試センター 試験の利用方法	そ の 他
医学部	医学 看護学専攻 検査技術科学専攻 理学療法専攻 作業療法専攻		国 社(倫, 日, 世, 地理から1) ただし, 高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外の者は上記の科目にかえて「現代社会」を選択できる。 数(「数Ⅰ」と「数Ⅱ」) ただし, 高等学校において「簿記会計」「工業数理」を修得した者又は文部大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了(見込み)者は「数Ⅱ」にかえて「簿記会計」か「工業数理」を選択できる。	数(代数・幾何, 基礎解析, 微分・積分, 確率・統計) 「確率・統計」のうち「資料の整理」「確率分布」及び「統計的な推測」は除外する。 理(物, 化, 生, 地学から2) 「理科Ⅰ」に含まれる当該科目の内容をも出題範囲とする。 外【英(英Ⅱ, 英Ⅲ, 英Ⅳ), 独, 仏から1】		個別学力検査等の出題方法について 数 学: 4科目合わせて出題し, 同一時間内に解答させる。 理 科: 2科目を同一時間内に解答させる。
	保健学科	一般選抜 の全部	理(物, 化, 生, 地学から1) ただし, 高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外の者は上記の科目にかえて「理科Ⅰ」を選択できる。 外(英, 独, 仏から1)	数(代数・幾何, 基礎解析, 微分・積分, 確率・統計) 「確率・統計」のうち「資料の整理」「確率分布」及び「統計的な推測」は除外する。 理(物, 化, 生から1) 「理科Ⅰ」に含まれる当該科目の内容をも出題範囲とする。 外【英(英Ⅱ, 英Ⅲ, 英Ⅳ), 独, 仏から1】 面接【保健学科作業療法専攻の受験者のみ面接の内容も加味して判定を行う。】	「大学入試センター試験及び個別学力検査等の教科別配点」を参照すること。	個別学力検査等の出題方法について 外国語: 英語は, 3科目合わせて出題し, 同一時間内に解答させる。 個別学力検査等の出題方法について 数 学: 4科目合わせて出題し, 同一時間内に解答させる。 外国語: 英語は, 3科目合わせて出題し, 同一時間内に解答させる。

《注意》備考を参照すること。

【後期日程】

【後期日程】											
入学志願者に解答させる 教科・科目名等				選抜 対象	大学入試センター試験で入学志願者に 解答させる教科・科目名			個別の 学科学科 力検査項目等	大学入試センター 試験の利用方法	その他	
文学部	国際文化学部	人間発達科学科	文小論コ受験コ一ス	一般選抜 の全部	国 数(倫、日、世、地理から1) ただし、高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外の者は上記の科目にかえて「現代社会」を選択できる。	小説文	外[英(英Ⅱ、英ⅡB、英ⅡC)]	個別学力検査等の出題方法については、別掲の小論文の内容を参照すること。 外国語：英語は、3科目合わせて出題し、同一時間内に解答させる。	個別学力検査等の出題方法について 数学：2科目合わせて出題し、同一時間内に解答させる。 外国語：英語は、3科目合わせて出題し、同一時間内に解答させる。	個別学力検査等の出題方法について 小論文の内容については、別掲の小論文の内容を参照すること。	
			数理数コ受験コ一ス			数(代数・幾何、基礎解析) 外[英(英Ⅱ、英ⅡB、英ⅡC)]					個別学力検査等の出題方法について 数学：2科目合わせて出題し、同一時間内に解答させる。 外国語：英語は、3科目合わせて出題し、同一時間内に解答させる。
			理小論コ受験コ一ス			小説文					個別学力検査等の出題方法について 小論文の内容については、別掲の小論文の内容を参照すること。
発達科学部			系文ス	一般選抜 の全部	理(物、化、生、地学から1) ただし、高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外の者は上記の科目にかえて「理科Ⅰ」を選択できる。	小説文	「大学入試センター試験及び個別学力検査等の教科力検査等の教科別配点」を参照すること。	個別学力検査等の出題方法について 小論文の内容については、別掲の小論文の内容を参照すること。	個別学力検査等の出題方法について 数学：4科目合わせて出題し、同一時間内に解答させる。	個別学力検査等の出題方法について 小論文の内容については、別掲の小論文の内容を参照すること。	
			理小論コ受験コ一ス			小説文					個別学力検査等の出題方法について 小論文の内容については、別掲の小論文の内容を参照すること。
			音楽受験コ一ス 美術受験コ一ス 体育受験コ一ス			実技検査(音楽、美術、体育から1)					個別学力検査等の出題方法について 実技検査の内容については、別掲の実技の内容を参照すること。
経済学部		人間行動・表現学科	主コ一ス		外(英、独、仏から1)	数(代数・幾何、基礎解析) 外[英(英Ⅱ、英ⅡB、英ⅡC)]	数(代数・幾何、基礎解析) 外[英(英Ⅱ、英ⅡB、英ⅡC)]	個別学力検査等の出題方法について 数学：2科目合わせて出題し、同一時間内に解答させる。 外国語：英語は、3科目合わせて出題し、同一時間内に解答させる。	個別学力検査等の出題方法について 数学：2科目合わせて出題し、同一時間内に解答させる。 外国語：英語は、3科目合わせて出題し、同一時間内に解答させる。	個別学力検査等の出題方法について 数学：2科目合わせて出題し、同一時間内に解答させる。 外国語：英語は、3科目合わせて出題し、同一時間内に解答させる。	
			数学受験コ一ス 英語受験コ一ス			数(代数・幾何、基礎解析) 外[英(英Ⅱ、英ⅡB、英ⅡC)]					個別学力検査等の出題方法について 数学：2科目合わせて出題し、同一時間内に解答させる。 外国語：英語は、3科目合わせて出題し、同一時間内に解答させる。
経営学部	夜間主コース		夜間主コ一ス		国 数(「数Ⅰ」と「数Ⅱ」) ただし、高等学校において「簿記会計」「工業数理」を修得した者又は文部大臣の指定を受けた専門学校高等課程の学科の修了(見込み)者は「数Ⅱ」にかえて「簿記会計」か「工業数理」を選択できる。	外[英(英Ⅱ、英ⅡB、英ⅡC)]	個別学力検査等は課さない				
法学部	夜間主コース		夜間主コ一ス		外(英、独、仏から1)						

《注意》備考を参照すること。

【後期日程】

【後期日程】									
入学志願者に解答させる 学部(学科,専攻等)名				選抜 対象	国 社	解答させる教科・科目名	個 等 の 別 学 科 ・ 学 力 検 査 等	大学入試センター 試験の利用方法	そ の 他
法 学 部	星 間 主 コ ー ス	学 部	部	一般選抜 の 全部	国	社（倫、日、世、地理から1） ただし、高等学校の普通科・理数科の卒業（見込み）者以外の者は上記の科目にかえて「現代社会」を選択できる。	小論文	「大学入試センター 試験及び個別学 力検査等の教科 別配点」を参照 すること。	個別学力検査等の出題方法について 小論文の内容については、別掲の小論文の内容を参照すること。
					数（「数Ⅰ」と「数Ⅱ」） ただし、高等学校において「簿記会計」「工業数値」を修得した者又は文部大臣の指定を受けた高等学校高等課程の学科の修了（見込み）者は「数Ⅱ」にかえて「簿記会計」か「工業数値」を選択できる。	数（代数・幾何、基礎解析、微分・積分、確率・統計） 「確率・統計」のうち「資料の整理」「確率分布」と計的な措置は除外する。	個別学力検査等の出題方法について		数学：4科目合わせて出題し、同一時間内に解答させる。
					理（物、化、生、地学から1） ただし、高等学校の普通科・理数科の卒業（見込み）者以外の者は上記の科目にかえて「理科Ⅰ」を選択できる。	外〔英（英Ⅱ、英ⅡB、英ⅡC）〕	外国語：英語は、3科目合わせて出題し、同一時間内に解答させる。		
					外（英、独、仏から1）				
工 学 部	機 械 工 学 科	部	部	一般選抜 の 全部	国	社（倫、日、世、地理から1） ただし、高等学校の普通科・理数科の卒業（見込み）者以外の者は上記の科目にかえて「現代社会」を選択できる。	数（「数Ⅰ」と「数Ⅱ」） ただし、高等学校において「簿記会計」「工業数値」を修得した者又は文部大臣の指定を受けた高等学校高等課程の学科の修了（見込み）者は「数Ⅱ」にかえて「簿記会計」か「工業数値」を選択できる。	「大学入試センター 試験及び個別学 力検査等の教科 別配点」を参照 すること。	個別学力検査等の出題方法について
					数（「数Ⅰ」と「数Ⅱ」） ただし、高等学校において「簿記会計」「工業数値」を修得した者又は文部大臣の指定を受けた高等学校高等課程の学科の修了（見込み）者は「数Ⅱ」にかえて「簿記会計」か「工業数値」を選択できる。	数（代数・幾何、基礎解析、微分・積分、確率・統計） 「確率・統計」のうち「資料の整理」「確率分布」と計的な措置は除外する。	数学：4科目合わせて出題し、同一時間内に解答させる。		
					理（物）と「化」 ただし、高等学校の普通科・理数科の卒業（見込み）者以外の者は「化学Ⅰ」にかえて「理科Ⅰ」を選択できる。				
					外（英、独、仏から1）				
理 学 部	数 学 科	部	部		数（「数Ⅰ」と「数Ⅱ」） ただし、高等学校において「簿記会計」「工業数値」を修得した者又は文部大臣の指定を受けた高等学校高等課程の学科の修了（見込み）者は「数Ⅱ」にかえて「簿記会計」か「工業数値」を選択できる。	数（代数・幾何、基礎解析、微分・積分、確率・統計） 「確率・統計」のうち「資料の整理」「確率分布」と計的な措置は除外する。	個別学力検査等の出題方法について	数学：4科目合わせて出題し、同一時間内に解答させる。	
					理（物、化、生、地学から2） ただし、高等学校の普通科・理数科の卒業（見込み）者以外の者は上記の科目にかえて「理科Ⅰ」を選択できる。	外〔英（英Ⅱ、英ⅡB、英ⅡC）〕		外国語：英語は、3科目合わせて出題し、同一時間内に解答させる。	
					外（英、独、仏から1）	小論文		小論文の内容については、別掲の小論文の内容を参照すること。	
					外（英、独、仏から1）	小論文		小論文の内容については、別掲の小論文の内容を参照すること。	

《注意》備考を参照すること。

【後期日程】

学部(学科,専攻等)名	入学志願者に解答させる 教科・科目名等	選抜の 対象	大学入試センター試験で入学志願者に 解答させる教科・科目名	個別 等の 教科 科目 力 検 査 等	大学入試センター 試験の利用方法	そ の 他
経済学部 夜間主コース			国 数(「数Ⅰ」と「数Ⅱ」) ただし、高等学校において「簿記会計」「工業 数理」を修得した者又は文部大臣の指定を受け た専修学校高等課程の学科の修了(見込み)者 は「数Ⅱ」にかえて「簿記会計」か「工業数理」 を選択できる。 外(英,独,仏から1) 社(倫,日,世,地理)又は理(物,化, 生,地学)から1 ただし、高等学校の普通科・理数科の卒業(見 込み)者以外の者は上記の科目にかえて「理科Ⅰ」 を選択できる。	個別学力検査等は課さない		
医学部	医学科	一般選抜 の全部	国 社(倫,日,世,地理から1) ただし、高等学校の普通科・理数科の卒業(見 込み)者以外の者は上記の科目にかえて「現代 社会」を選択できる。 数(「数Ⅰ」と「数Ⅱ」) ただし、高等学校において「簿記会計」「工業 数理」を修得した者又は文部大臣の指定を受け た専修学校高等課程の学科の修了(見込み)者 は「数Ⅱ」にかえて「簿記会計」か「工業数理」 を選択できる。 理(物,化,生,地学から1) ただし、高等学校の普通科・理数科の卒業(見 込み)者以外の者は上記の科目にかえて「理科 Ⅰ」を選択できる。 外(英,独,仏から1)	小論文	「大学入試センター 試験及び個別学 力検査等の教科 力配点」を参照 すること。	
	看護学専攻					
	保健学科 検査技術科学専攻 理学療法学専攻 作業療法学専攻			小論文 面接		個別学力検査等の出題方法について 小論文の内容については、別掲の小論 文の内容を参照すること。

【注 意】備考を参照すること。

【推薦入学】

学部(学科,専攻等)名	入学志願者に解答させる 教科・科目名等	選抜の 対象	大学入試センター試験で入学志願者に 解答させる教科・科目名	個別 等の 教科 科目 力 検 査 等	大学入試センター 試験の利用方法	そ の 他
経済学部 昼間主コース			国 社(倫,日,世,地理から1) ただし、高等学校の普通科・理数科の卒業(見 込み)者以外の者は上記の科目にかえて「現代 社会」を選択できる。 数(「数Ⅰ」と「数Ⅱ」) ただし、高等学校において「簿記会計」「工業 数理」を修得した者又は文部大臣の指定を受け た専修学校高等課程の学科の修了(見込み)者 は「数Ⅱ」にかえて「簿記会計」か「工業数理」 を選択できる。 理(物,化,生,地学から1) ただし、高等学校の普通科・理数科の卒業(見 込み)者以外の者は上記の科目にかえて「理科 Ⅰ」を選択できる。 外(英,独,仏から1)	個別学力検査等は課さない	5教科6科目を 利用するが「大 学入試センター 試験及び個別学 力検査等の教科 力配点」は適用 しない。	
法学部 夜間主コース		推薦入試	国 社(倫,日,世,地理から1) ただし、高等学校の普通科・理数科の卒業(見 込み)者以外の者は上記の科目にかえて「現代 社会」を選択できる。 数(「数Ⅰ」と「数Ⅱ」) ただし、高等学校において「簿記会計」「工業 数理」を修得した者又は文部大臣の指定を受け た専修学校高等課程の学科の修了(見込み)者 は「数Ⅱ」にかえて「簿記会計」か「工業数理」 を選択できる。 外(英)	面接	理科を除く4教 科のうち1教科 を利用するが 「大学入試センター 試験及び個別学 力検査等の教科 力配点」を参照 すること。	
経済学部 夜間主コース			数(「数Ⅰ」と「数Ⅱ」)又は外(英) ただし、高等学校において「簿記会計」「工業 数理」を修得した者又は文部大臣の指定を受け た専修学校高等課程の学科の修了(見込み)者 は「数Ⅱ」にかえて「簿記会計」か「工業数理」 を選択できる。	面接	数学と外国語 (英)のうち1教 科を利用するが 「大学入試センター 試験及び個別学 力検査等の教科 力配点」を参照 すること。	

【注 意】備考を参照すること。

【推薦入学】

学部(学科,専攻等)名	入学志願者に解答させる 教科・科目名等	選抜の 対象	大学入試センター試験で入学志願者に 解答させる教科・科目名	個別 等の 教科 力 学 科 ・ 科 目	大学入試センター 試験の利用方法	そ の 他
経営学部夜間主コース		推薦入学	下記の4教科のうち外国語を含む 2教科を選択受験すること。 記 国 社 (倫, 日, 世, 地理から1) ただし, 高等学校の普通科・理数科の卒業(見 込み)者以外の者は上記の科目にかえて「現代 社会」を選択できる。 数 (数Ⅰ)と「数Ⅱ」 ただし, 高等学校において「簿記会社」「工専 数Ⅱ」を修得した者又は文部大臣の指定を受け た専修学校高等課程の学科の修了(見込み)者 は「数Ⅱ」にかえて「簿記会社」か「工専数Ⅱ」 を選択できる。 外 (英, 独, 仏から1)	面接	理科を除く4教科 のうち2教科を 利用するが 「大学入試センター 試験及び個別学 力検査等の教科 別配点」を参照 すること。	

備考 1. 大学入試センター試験の教科・科目で必要とする科目数を超えて受験した場合の取扱いにつ
いて

ア. 後期日程の工学部(機械工学科)の理科は, 指定した2科目の成績を用いる。

イ. 後期日程の理学部の理科は, 高得点順に2科目の成績を用いる。

ウ. 経済学部夜間主コースの社会又は理科は, 高得点の教科・科目の成績を用いる。

エ. 上記ア, イ, ウ以外の理科は, 高得点の科目の成績を用いる。

オ. 前期日程の経営学部夜間主コースは, 高得点の2教科の成績を用いる。

カ. 推薦入学の法学部夜間主コースは, 高得点の教科・科目の成績を用いる。

キ. 推薦入学の経済学部夜間主コースは, 指定した教科・科目のいずれか高得点の成績を用いる。

ク. 推薦入学の経営学部夜間主コースは, 高得点の教科・科目の成績を用いる。

2. 前期日程の発達科学部の人間環境科学科を志願する者は, 文科系又は理科系のいずれかの教科・科目を選択し, 受験しなければならない。

3. 前期日程の発達科学部の人間環境科学科を志願する者は, 文科系受験コース又は理科系受験コースのいずれかを選択し, 受験しなければならない。

4. 前期日程の発達科学部の人間行動・表現学科を志願する者は, 音楽受験コース, 美術受験コース又は体育受験コースのいずれかを選択し, それぞれのコースで文科系又は理科系のいずれかの教科・科目を選択し, 受験しなければならない。

5. 後期日程の発達科学部の人間環境科学科を志願する者は, 文科系小論文受験コース, 理科系数学受験コース又は理科系小論文受験コースのいずれかを選択し, 受験しなければならない。

6. 後期日程の発達科学部の人間行動・表現学科を志願する者は, 音楽受験コース, 美術受験コース又は体育受験コースのいずれかを選択し, 受験しなければならない。

7. 前期日程の経営学部夜間主コースは, 入学者選抜の際, 次の者についてそれぞれ優先的に取扱う。

① 大学入試センター試験の5教科(国語・社会・数学・理科・外国語)の総合点(大学入試センターの配点による)の高得点者〔前期日程募集人員の約30%〕

② 個別学力検査の3教科(国語・数学・外国語)の総合点の高得点者〔前期日程募集人員の約30%〕

8. 後期日程の経営学部夜間主コースを志願する者は, 数学受験コース又は英語受験コースのいずれかを選択し, 受験しなければならない。

実技検査の内容

発達科学部〈人間行動・表現学科〉

音楽受験コース

前期日程・後期日程共通

全員に次の検査を行う。

1. 新曲視唱(コルニューブングン第1巻終了程度)
2. ピアノによる初見視奏(ツェルニー30番終了程度)
3. 簡単な二声聴音の書き取り
4. 各自任意の器楽曲又は, 声楽曲を1曲演奏すること。
※ 演奏は諸民族の楽器も含み, 楽曲のジャンルと様式は問わない。
※ 演奏する楽曲は10分以内のものとし, 自作のものもよい。
- ※ 伴奏ピアノニストは大学で用意する。
- ※ 声楽演奏の場合
① 伴奏ピアノニストは大学で用意する。
② 伴奏楽器を願書と共に提出すること。
③ 弾き歌い及び無伴奏も認める。
- ※ 楽器演奏の場合は, 無伴奏とする。
- ※ 演奏はすべて暗譜とする。
- ※ ピアノ以外の楽器は各自で用意すること。

美術受験コース

前期日程第2日目(第1日目は個別学力検査), 後期日程第1日目(約5時間)

造形の基礎能力をみる。

* 水彩用具を使用する場合もあるが, 各自持参すること。

前期日程第3日目, 後期日程第2日目(約5時間)

次の二つの課題から一つを選択する。

A. 美術

* 水彩用具を使用する場合もあるので, 各自持参すること。

B. デザイン

* 彩色用具及び値定規, 三角定規, コンパス, 鉛筆等を使用する場合もあるので, 各自持参すること。

体育受験コース

前期日程

1. 体力及び基礎運動能力を検査する。
2. 次の5つの運動種目から3種目を選択させ, その実技能力を検査する。

- ① 体操競技
- ② 陸上競技
- ③ 球技(バスケットボール, バレーボール, サッカー, 野球, バドミントン, ハンドボール, ラクビー, 卓球, テニスから1種目選択)
- ④ 武道(柔道, 剣道から1種目選択)
- ⑤ 創作ダンス

後期日程

1. 運動・スポーツに関する映像(ビデオ等)を見せて, 身体運動についての観察力を検査する。
2. 次の運動種目から1種目を選択させ, その実技能力を検査する。

体操競技, 陸上競技, バスケットボール, バレーボール, サッカー, 野球, テニス, 柔道, 創作ダンス

文学部

1. 文学部の勉学に必要な理解力, 思考力, 表現力を試す問題を課する。
2. 解答時間及び配点 2 時間 200点

発達科学部

- ◎人間発達科学科
1. 理解力, 思考力, 表現力等を問うため, 資料を与えて論述させる。
2. 解答時間及び配点 2 時間30分 150点

◎人間環境科学科

- 文科系小論文受験コース
1. 論 文 社会科学・人文科学に関する資料を与えて論述させる。
2. 解答時間及び配点 2 時間30分 200点

3. 試験の狙い 理解力, 思考力, 論理的表現力等を問う。

理科系小論文受験コース

1. 論 文 自然科学に関する資料を与えて論述させる。
2. 解答時間及び配点 2 時間30分 200点
3. 試験の狙い 理解力, 思考力, 論理的表現力等を問う。

法学部昼間主コース

1. 論 文 資料を与えて論述させる。
(800字～1000字程度)
2. 解答時間及び配点 3 時間 200点
3. 試験の狙い 理解力, 思考力, 表現力を問う。

理学部

◎物理学科

1. 筆記試験 高等学校における理科(主として物理)の問題を与えて, 論述又は他の形式で解答させる。
2. 解答時間及び配点 2 時間 200点
3. 試験の狙い 理解力, 思考力, 表現力等を問う。

◎地球惑星科学科

1. 筆記試験及びその狙い 自然科学の勉学に必要な論理的解析力, 直観力, 表現力等を試す問題を与えて, 解答させる。
2. 解答時間及び配点 3 時間 400点

医学部

◎医学科

1. 総合筆記試験 和文又は英文の問題を与えて, 論述又は他の形式で解答させる。
2. 解答時間及び配点 3 時間 400点
3. 試験の狙い 理解力, 解析力, 社会性, 論理性, 総合学力など, 医師となるための適性を見る。

◎保健学科

1. 総合筆記試験 和文又は英文の問題を与えて, 論述又は他の形式で解答させる。
2. 解答時間及び配点 2 時間 200点
3. 試験の狙い 理解力, 解析力, 社会性, 論理性, 総合学力など, 医療技術者となるための適性を見る。

大学入試センター試験及び個別学力検査等の教科別配点

日程	前期										後期									
	文学部		発達科学部		法学部		経済学部		経営学部		理学部		医学部		保健学科		農学部		工学部	
教科	センター試験		センター試験		センター試験		センター試験		センター試験		センター試験		センター試験		センター試験		センター試験		センター試験	
	個別学力検査		個別学力検査		個別学力検査		個別学力検査		個別学力検査		個別学力検査		個別学力検査		個別学力検査		個別学力検査		個別学力検査	
	100		100		100		100		100		100		100		100		100		100	
	150		150		150		150		150		150		150		150		150		150	
国語	100	150	100	150	100	150	100	150	100	150	100	150	100	150	100	150	100	150	100	150
社会	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
数学	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75
理科	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75
外国語	100	125	100	125	100	125	100	125	100	125	100	125	100	125	100	125	100	125	100	150
小論文																				
実技																				
計	450	350	450	350	375	425	400	400	400	400	425	375	500	100	450	350	300	425	400	400
合計	800	800	800	800	800	800	800	800	800	800	600	600	600	600	800	800	500	800	800	800

- 備考 1. 経済学部昼間主コース, 法学部, 経済学部及び経営学部の各夜間主コースの推薦入学については, 上記の教科別配点を適用しない。
2. 前期日程の経営学部昼間主コースの入学選抜の際, 次の者についてそれぞれ優先的に取扱う。
① 大学入試センター試験の5教科(国語・社会・数学・理科・外国語)の総合点の高得点者
【前期日程募集人員の約30%】
なお, 配点は国語 200, 社会 100, 数学 200, 理科 100, 外国語 200(大学入試センターの配点)による。
② 個別学力検査の3教科(国語・数学・外国語)の総合点の高得点者【前期日程募集人員の約30%】

日程	後			期			日		程			学部
	文学部	国際文化学部	人間発達科学科	発達科学科			学科学科	学部	学部	学部		
学部等												
教科	センター試験	個別学力検査	センター試験	個別学力検査	センター試験	個別学力検査	センター試験	個別学力検査	センター試験	個別学力検査	センター試験	個別学力検査
国語	100	100	100	100	50	50	50	50	100	200	70	100
社会	100	100	50	50	50	50	50	50	100	20	★100	
数学	50	50	50	50	200	60	50	100	100	20	150	200
理科	50	50	50	50	70	70	50	50	×	20	★100	
外国語	100	200	100	100	70	70	50	100	200	20	150	200
小論文		200	150	150	200	200		200				
実技								250				
計	400	400	350	150	300	200	250	250	400	200	150	300
合計	800	600	500	500	500	500	500	500	600	600	450	600

備考 8. 表中の★印は、受験した教科・科目のうち高得点の成績を用いる。
9. 表中の×印は、大学入試センター試験を受験しなくともよい。

[illegible]

10. 表中の×印は、大学入試センター試験を受験しなくてもよい。

11. 表中の○印は、大学入試センター試験を必ず受験しておく必要があるが配点はしない。

12. 後期日程の医学部保健学科の各専攻は、面接の内容も加味して判定を行う。

13. 工学部（機械工学科）の大学入試センター試験の理科の配点は物理100点、化学又は理科180点とする。

とる。

④ 推薦入学の法学部夜間主コースは、理科を除く4教科のうち1教科を選択受験すること。

⑤ 推薦入学の経済学部夜間主コースは、数学又は外国語(英語)のうち1教科を選択受験すること。

⑥ 推薦入学の経営学部夜間主コースは、理科を除く4教科のうち外国語(☆印)を含む2教科を選択受験すること。

【推薦入学】

学部等	法学部 夜間主 コース	経済学部 夜間主 コース	経営学部 夜間主 コース	ゼンタ ー試 験	セン ー 試 験	セン ー 試 験
				試験	試験	試験
教 科	国 語	200	×	×	100	100
	社 会	200	×	×	100	100
	数 学	200	200	200	100	100
	理 科	×	×	×	×	×
	外国語	200	200	200	☆100	100
合 計		200	200	200		200

◇平成7年度大学院学生募集要項（抜粋）

◎修士課程

研究科	専攻	募集人員	出願期間	試験日	試験場	合格者発表		
文学研究科 (第Ⅰ期)	哲学専攻	8名	H.6.8.31(木) } H.6.9.2(金)	H.6.10.4(火) 5(木)	神戸大学 文学部学舎	H.6.10.14(金)		
	芸術学芸術史専攻	4名						
	社会学専攻	6名						
	史学専攻	14名						
	国文学専攻	8名						
	英米文学専攻	10名						
教育学研究科	学校教育専攻	10名	H.6.9.12(月) } H.6.9.16(金)	H.6.10.4(火)	神戸大学 発達科学部学舎	H.6.10.14(金)		
	国語教育専攻	5名						
	社会科教育専攻	10名						
	数学教育専攻	5名						
	理科教育専攻	10名						
	音楽教育専攻	5名						
	美術教育専攻	5名						
	保健体育専攻	5名						
	技術教育専攻	5名						
	家政教育専攻	5名						
	英語教育専攻	5名						
国際協力研究科	国際開発政策専攻	※24名	H.6.8.1(月) } H.6.8.8(月)	H.6.9.1(木)・2(金)	神戸大学 法学部学舎 経済学部学舎	H.6.9.9(金)		
	国際協力政策専攻	※22名						
	地域協力政策専攻	※18名						
自然科学研究科	数学専攻	15名	H.6.8.22(月) } H.6.8.26(金)	H.6.9.19(月)・20(火) H.6.9.20(火)・22(木) H.6.9.7(木)・8(木) H.6.9.26(月)・27(火)	神戸大学 理学部学舎	H.6.10.3(月)		
	物理学専攻	15名						
	化学専攻	15名						
	生物学専攻	20名						
		地球惑星科学専攻	18名					
	自然科学研究科	建設学専攻	*72名	H.6.7.25(月) } H.6.7.29(金)	H.6.8.30(火) 31(木)	神戸大学 工学部学舎	H.6.9.5(月)	
		電気電子専攻	*42名					
		機械工学専攻	*72名					
		応用化学専攻	47名					
			情報知能工学専攻	*51名				
		自然科学研究科	応用動物学専攻	17名	H.6.7.1(金) } H.6.7.15(金)	H.6.8.31(木) ～9.2(金)	神戸大学 農学部学舎	H.6.9.14(木)
			植物資源学専攻	*18名				
			生物環境制御学専攻	15名				
			生物機能化学専攻	15名				
生産環境情報学専攻			12名					

*印は外国人留学生7名を含む。※印は外国人留学生を含む。

◎博士課程前期課程・修士課程

研究科	専攻	募集人員	出願期間	試験日	試験場	合格者発表
法学研究科	私法専攻	14名以内	H.6.7.25(月) H.6.8.1(月)	H.6.9.5(月)～7(木) H.6.9.3(土)5(月)6(火)	神戸大学 法学部学舎	H.6.9.16(金)
	公法専攻	15名以内				
	法政策専攻	28名				

◎博士課程前期課程

研究科	専攻	募集人員	出願期間	試験日	試験場	合格者発表
経済学研究科	経済学・経済政策専攻	30名	H.6.7.25(月) H.6.7.29(金)	H.6.8.29(月)・30(火)	神戸大学 経済学部学舎	H.6.9.16(金)
	国際経済専攻	13名				
経営学研究科	経営学専攻	56名	H.6.8.1(月) H.6.8.5(金)	H.6.8.29(月)・30(火)	神戸大学 経営学部学舎	H.6.9.16(金)
	会計学専攻					
	商学専攻					
	日本企業経営専攻					

◎後期3年博士課程

研究科	専攻	募集人員	出願期間	試験日	試験場	合格者発表
自然科学研究科	物質科学専攻	10名	H.6.8.1(月) H.6.8.5(金)	H.6.9.1(木)・2(金)	神戸大学 大学院自然科学 研究科学舎	H.6.9.26(月)
	生産科学専攻	☆10名				
	資源生物科学専攻	☆7名				
	環境科学専攻	☆7名				
	システム科学専攻	☆6名				
	知能科学専攻	☆6名				
	生命機能科学専攻	13名				

☆印は外国人留学生2名を含む。

※ 文化科学研究科、医学研究科については、次号以降に掲載する

◇平成6年度国際研究集会派遣研究員の決定（第Ⅱ期）

所属・職名氏	研究集会名	開催地	開催期間
工学部 助教授 賀谷 信幸	第45回国際宇宙航空会議	エルサレム (イスラエル)	6.10.9 ～6.10.14

掲 示 板

◇職員の住所変更等

・住所・居住表示変更

p.61

◇改姓

部局	官職	氏名	改正年月日	旧姓

日 誌

(平成6年6月)

6月9日(木) 部局長会議

14日(火) 社会教育主事講習開講式

(於 発達科学部)

20日(月)～22日(水)

人事院式監督者研修(JST基本コース

於 自然科学系図書館)

22日(水) 学位記授与式

23日(木) 評議会

名誉教授・部局長懇談会

(於 自然科学研究科)

28日(火) 事務連絡会議

神戸大学100年史編集室だより

－歴史のひとこま－

前身校の歴史－姫路高等学校図書室－

本学の前身校の一つである姫路高等学校は、大正12（1923）年12月勅令第501号を以て設置された。翌13年4月から姫路師範学校と姫路中学校の一部を仮校舎として授業が開始された。同じ年の9月には待望の学舎が兵庫県飾磨郡安室村に新築され、その後も続々と施設は充実がはかられた結果、図書閲覧室の完成をみたのは、大正15年4月のことで、木造平屋建て建坪は69.5坪であった。同年の9月には鉄筋コンクリート2階建の書庫も完成した。

今、大正15年度の『姫路高等学校一覧』によって当時の状況を窺ってみると、図書課のスタッフは、課長1名、書記1名、雇2名の4名体制で、図書課長の任にあたられたのは、鹿児島県出身で、第一語学科・英語担当の文学士野間眞綱教授であった。また図書課での具体的な業務内容を、同一覧の図書課事務分掌の項によってみると、

- 1、図書の保管整理及出納に関する事
- 2、図書印を管守すること
- 3、図書の購入及修理に関する事
- 4、図書目録編纂に関する事
- 5、図書貸付に関する事
- 6、書庫及閲覧室に関する事
- 7、新聞雑誌年報一覧等保管整理及出納に関する事
- 8、閲覧室書庫及図書課の設備及物品に関する事
- 9、図書に関する文書の起案編纂及保管に関する事
- 10、新着書籍の報告其の他図書に関する一切の事項

以上の10項目の事務が規定されていた。

ところで、図書閲覧室で図書を利用する場合、どのような制限や手続きがあったのだろう。学則施行細行の第7章図書によると、

- 1、本校所蔵の図書は図書課員の外之を取扱うことを得ず
- 2、教官は書庫に入り図書を検索することを得
- 3、教官は一員に二十冊其の他の職員は十冊を限

り図書を借受くることを得・・・

- 4、一員にして同一の図書二部以上は之を借受くることを得ず
- 5、必要に依り制限外の冊数規定外の書籍を借受けむとするときは特に学校長の許可を受くべし
- 6、本校生徒には毎学年の始図書課に於いて図書閲覧票を交付し学年の終り之を返納せしむ
- 7、図書を閲覧せむとする者は所定の用紙に所定の記入を為し図書閲覧票若は図書閲覧特許証を添え係員に差すべし
- 8、閲覧者は一時に洋装三冊和漢装十冊以上ヲ借覧することを得ず
- 9、図書の閲覧は必ず閲覧室に於いてし閲覧室外に携帯することを得ず閲覧了らば直ちに返納すべし
- 10、図書閲覧室に入る者は制服又は袴を着用し室内に於いては静粛を旨とし音読談話其の他他人の妨害となるべき行為あるべからず

以上のような規定があつて、書庫への入庫や図書の貸出等は教官が優先され、また学生の閲覧室内での図書の閲覧も、昨今の学生に多く見うけられる雑談の氾濫まがいの状況に比べると、極めて厳粛なものであったと思われる。

ところで、具体的にこの姫路高等学校図書室にどのような図書がどのくらい書蔵されていたのか、現在のところ不明瞭であるが、学友会の図書部の部史によると、「学校図書館と併立して校友会に図書部の存在するのは少ない。その目的とするところは、学校図書課は参考書、専門的図書を本位とするのに対し、校友の意図に沿って一般図書、新刊雑誌を提供し、一つには個人の経済的負担を軽くし合理的に読書慾を充足させようということであつた」、この記述からも明らかなように、学校の図書室には教育・研究用の図書が多く蔵書されていたようである。因みに校友会図書部には、昭和の初期に1300～2000冊の蔵書があり、当時多く読まれたのは文学書で、文科の学生は小説・語学・歴史・詩歌に関したもので、また理科の学生は随筆等の軽い読物を好んだようである。

各種委員会等委員名簿

(平成6年7月1日現在)

◦ 評議会	54
◦ 大学院委員会	54
◦ 自己評価委員会	55
◦ 補導協議会	55
◦ 鶴甲学生生活委員会	55
◦ 鶴甲夜間主コース学生生活委員会	55
◦ 入学試験機械化委員会	56
◦ 入学試験研究委員会	56
◦ 環境保全委員会	56
◦ 保健委員会	57
◦ 保健管理センター運営委員会	57
◦ 放射性同位元素等管理委員会	58
◦ 附属図書館運営委員会	58
◦ 公務員宿舎運営委員会	59
◦ 学舎総合計画委員会	59
◦ 総合情報処理センター運営委員会	60
◦ 共同研究開発センター運営委員会	60
◦ 遺伝子実験施設運営委員会	60
◦ バイオシグナル研究センター運営委員会	61
◦ 大学教育研究センター運営委員会	61
◦ 留学生センター運営委員会	61
◦ 水質管理センター運営委員会	62
◦ 低温センター運営委員会	62
◦ 放射性同位元素共同実験室運営委員会	62
◦ 機器分析センター運営委員会	62
◦ 教務関係事務システム管理委員会	63
◦ インターナショナル・レジデンス運営委員会	63
◦ 一般情報処理教育委員会	63
◦ 創立九十周年記念事業委員会	64
◦ 百年史編集委員会	64
◦ 国際交流委員会	65
◦ 情報ネットワークシステム委員会	65
◦ 発明委員会	66
◦ 組換えDNA実験安全委員会	66
◦ 公開講座委員会	66

(注) 名簿中、○印は委員長又は議長、*印は官職指定を表し、
欄外の()は担当課等を表す。

◎評 議 会			
所 属・官 職	氏 名	任 期	
○学 長	鈴 木 正 裕	*	
附 属 館 長	下 井 隆 史	*	
学 部 長	山 縣 熙	6. 6.29～	
文 学 部	教 授 真 方 忠 道	6.4. 1～8. 3.31	
	〃 山 縣 熙	〃	
国 際 文 化 学 部	学 部 長 田 中 雅 男	*	
	教 授 水 野 和 久	4.10. 1～6. 9.30	
	〃 安 井 三 吉	〃	
発 達 科 学 部	学 部 長 奥 山 晃 弘	*	
教 育 学 部	教 授 小 早 川 恵 三	4.10. 1～6. 9.30	
	〃 清 水 重 勇	〃	
法 学 部	学 部 長 三 井 誠	*	
	教 授 五 百 旗 頭 眞	5 6. 1～7. 5.31	
	〃 濱 田 富 士 郎	〃	
経 済 学 部	学 部 長 池 本 清	*	
	教 授 丸 谷 冷 史	5. 6. 1～7. 5.31	
	〃 高 橋 眞 一	〃	
経 営 学 部	学 部 長 宮 下 國 生	*	
	教 授 榑 原 茂 樹	5. 6. 1～7.5.31	
	〃 出 井 文 男	〃	
理 学 部	学 部 長 位 田 正 邦	*	
	教 授 河 本 洋 二	5. 4. 1～7. 3.31	
	〃 利 根 川 孝	〃	
医 学 部	学 部 長 山 鳥 崇	*	
	教 授 岡 田 安 弘	6. 4. 1～8. 3.31	
	〃 斎 藤 洋 一	〃	
工 学 部	学 部 長 片 岡 邦 夫	*	
	教 授 北 村 新 三	5. 6. 1～7. 5.31	
	〃 森 脇 俊 道	6. 5. 1～7. 5.31	
農 学 部	学 部 長 岩 崎 照 雄	*	
	教 授 加 藤 征 史 郎	5. 4. 1～7. 3.31	
	〃 新 家 龍	〃	
経 済 経 営 研 究 所	所 長 吉 原 英 樹	*	
附 属 病 院	院 長 望 月 眞 人	*	
自 然 科 学 科	科 長 藤 井 聰	*	
国 際 協 力 科	科 長 村 上 敦	*	
大 学 教 育 研 究 セ ン タ ー	セ ン タ ー 長 多 淵 敏 樹	*	

(庶務課)

◎大学院委員会			
所 属・官 職	氏 名	任 期	
○学 長	鈴 木 正 裕	*	
文学研究科長	山 縣 熙	*	
〃 教 授	枝 川 昌 雄	5. 4. 1～ 7. 3.31	
教育学研究科長	奥 山 晃 弘	*	
〃 教 授	濱 本 純 逸	6. 4. 1～ 7. 3.31	
法学研究科長	三 井 誠	*	
〃 教 授	磯 村 保	5. 4. 1～ 7. 3.31	
経済学研究科長	池 本 清	*	
〃 教 授	植 松 忠 博	6. 4. 1～ 7. 3.31	
経営学研究科長	宮 下 國 生	*	
〃 教 授	本 多 佑 三	6. 4. 1～ 7. 3.31	
理学研究科長	位 田 正 邦	*	
〃 教 授	赤 坂 一 之	6. 4. 1～ 7. 3.31	
医学研究科長	山 鳥 崇	*	
〃 教 授	奥 村 勝 彦	6. 4. 1～ 7. 3.31	
工学研究科長	片 岡 邦 夫	*	
〃 教 授	北 村 新 三	6. 4. 1～ 7. 5.31	
農学研究科長	岩 崎 照 雄	*	
〃 教 授	加 藤 征 史 郎	6. 4. 1～ 8. 3.31	
文化科学研究科長	真 方 忠 道	*	
文 学 研 究 科 長	真 方 忠 道	*	
自 然 科 学 科 長	藤 井 聰	*	
国 際 協 力 科 長	村 上 敦	*	

(庶務課)

◎自己評価委員会			
所 属・官 職	氏 名	任 期	
文 学 部 教 授	栗 原 優		
国 際 文 化 学 部 教 授	堀 信 夫		
発 達 科 学 部 教 授	土 屋 基 規		
法 学 部 教 授	福 永 有 利		
経 済 学 部 教 授	高 橋 眞 一		
経 営 学 部 教 授	出 井 文 男		
理 学 部 教 授	河 本 洋 二		
医 学 部 教 授	横 山 光 宏		
工 学 部 教 授	坂 口 忠 司		
農 学 部 教 授	岩 崎 照 雄		
文化科学研究科教授	森 清 善 行		
自然科学研究科教授	藤 井 聰		
国際協力研究科教授	植 松 忠 博		
経済経営研究所教授	伊 藤 駒 之		
医学部附属病院教授	河 野 通 雄		
医療技術短期大学教授	前 田 和 美		
国際文化学部教授	依 田 博		
法 学 部 教 授	棟 居 快 行		
○法 学 部 教 授	下 井 隆 史		
副学長大学教育センター長	多 淵 敏 樹		
工 学 部 教 授	北 村 新 三		
農 学 部 教 授	加 藤 征 史 郎		
学 生 部 長	柳 川 高 明		
事 務 局 長	高 橋 一 之		

(庶務課)

◎補導協議会			
所 属・官 職	氏 名	任 期	
○学 生 部 長	柳 川 高 明	*	
文 学 部 教 授	大 野 道 邦	5. 4. 1～ 7. 3.31	
国 際 文 化 学 部 教 授	村 井 隆 之	5.10. 1～ 6. 9.30	
発 達 科 学 部 教 授	小 石 寛 文	4.10. 1～ 6. 9.30	
教 育 学 部 教 授	今 谷 順 重	6. 4. 1～ 8. 3.31	
法学部・第二課程教授	丸 山 英 二	5. 4. 1～ 7. 3.31	
経済学部・第二課程教授	三 谷 直 紀	6. 4. 1～ 7. 3.31	
経営学部・第二課程教授	得 津 一 郎	〃	
理 学 部 教 授	山 口 寛	5.10. 1～ 6. 9.30	
医 学 部 教 授	佐 藤 茂 秋	〃	
工 学 部 教 授	北 村 泰 寿	〃	
農 学 部 教 授	上 島 脩 志	5.10. 1～ 7. 9.30	
文化科学研究科教授	森 匡 史	5. 4. 1～ 7. 3.31	
自然科学研究科教授	津 川 兵 衛	6. 4. 1～ 7. 3.31	
国際協力研究科教授	井 川 一 宏	〃	
鶴甲学生生活委員会委員長	辻 壮 一	〃	
鶴甲夜間主コース学生生活委員会委員長	吹 春 俊 隆	〃	

(学生課)

◎鶴甲学生生活委員会

所 属・官 職	氏 名	任 期
国 際 文 化 学 部 教 授	小 林 和 子	6. 4. 1～ 7. 3.31
法 学 部 教 授	酒 巻 匡	〃
経 営 学 部 教 授	加 登 豊	〃
医 学 部 教 授	松 村 武 男	〃
○農 学 部 教 授	辻 荘 一	〃

(国際文化学部)

◎鶴甲夜間主コース学生生活委員会

所 属・官 職	氏 名	任 期
法 学 部 教 授	中 野 俊 一 郎	6. 4. 1～ 7. 3.31
○経 済 学 部 教 授	吹 春 俊 隆	〃
経 営 学 部 教 授	得 津 一 郎	〃
国 際 文 化 学 部 教 授	松 原 良 治	〃
発 達 科 学 部 教 授	山 口 泰 雄	〃

(国際文化学部)

◎入学試験機械化委員会		
所 属・官 職	氏 名	任 期
文 学 部 助 教 授	奥 村 弘	6. 5. 1～ 7. 4.30
国 際 文 化 学 部 助 教 授	水 谷 雅 彦	〃
法 学 部 助 教 授	中 林 稔 堯	〃
法 学 部 助 教 授	畑 瑞 穂	〃
法 学 部 助 教 授	羽 森 茂 之	〃
〇 経 営 学 部 助 教 授	石 原 定 和	〃
理 学 部 助 教 授	川 井 浩 史	〃
医 学 部 助 教 授	片 岡 徹	〃
工 学 部 助 教 授	竹 中 信 幸	〃
農 学 部 助 教 授	中 田 昌 伸	〃
(入試課)		
◎入学試験研究委員会		
所 属・官 職	氏 名	任 期
文 学 部 助 教 授	西 光 義 弘	5. 4. 1～ 7. 3.31
国 際 文 化 学 部 助 教 授	信 太 周	〃
〇 法 学 部 助 教 授	中 村 昌 稔	〃
法 学 部 助 教 授	小 野 紀 明	〃
法 学 部 助 教 授	福 田 亘	〃
法 学 部 助 教 授	丸 山 雅 祥	6. 4. 1～ 7. 3.31
法 学 部 助 教 授	磯 野 克 己	5. 4. 1～ 7. 3.31
法 学 部 助 教 授	龍 野 嘉 紹	〃
法 学 部 助 教 授	峯 本 工	〃
法 学 部 助 教 授	團 野 源 一	〃
(入試課)		
◎環境保全委員会		
所 属・官 職	氏 名	任 期
文 学 部 助 教 授	野 村 亮 太 郎	6. 2. 1～ 8. 1.31
国 際 文 化 学 部 助 教 授	光 末 紀 子	4.10. 1～ 6. 9.30
法 学 部 助 教 授	齋 藤 智	〃
法 学 部 助 教 授	阿 部 泰 隆	6. 2. 1～ 8. 1.31
法 学 部 助 教 授	萩 原 泰 治	〃
法 学 部 助 教 授	得 津 一 郎	〃
法 学 部 助 教 授	角 野 康 郎	6. 2. 1～ 8. 1.31
法 学 部 助 教 授	住 野 公 昭	〃
法 学 部 助 教 授	神 田 徹	〃
法 学 部 助 教 授	南 森 隆 司	〃
法 学 部 助 教 授	富 田 昌 宏	〃
法 学 部 助 教 授	下 井 隆 史	〃
法 学 部 助 教 授	奥 村 勝 彦	6. 2.23～ 8. 2.22
法 学 部 助 教 授	奥 村 武 久	6. 2. 1～ 8. 1.31
法 学 部 助 教 授	松 井 範 義	〃
(庶務課)		

◎保健委員会		
所 属・官 職	氏 名	任 期
〇学 長	鈴 木 正 裕	*
文 学 部 助 教 授	山 縣 熙	*
国 際 文 化 学 部 助 教 授	田 中 雅 男	*
法 学 部 助 教 授	奥 山 晃 弘	*
法 学 部 助 教 授	三 井 誠	*
法 学 部 助 教 授	池 本 清	*
法 学 部 助 教 授	宮 下 國 生	*
法 学 部 助 教 授	位 田 正 邦	*
法 学 部 助 教 授	山 鳥 崇	*
法 学 部 助 教 授	片 岡 邦 夫	*
法 学 部 助 教 授	岩 崎 照 雄	*
法 学 部 助 教 授	真 方 忠 道	*
法 学 部 助 教 授	藤 井 聰	*
法 学 部 助 教 授	村 上 敦	*
法 学 部 助 教 授	吉 原 英 樹	*
法 学 部 助 教 授	下 井 隆 史	*
法 学 部 助 教 授	望 月 眞 人	*
法 学 部 助 教 授	高 橋 一 之	*
法 学 部 助 教 授	柳 川 高 明	*
法 学 部 助 教 授	長 井 勇	*
(厚生課)		
◎保健管理センター運営委員会		
所 属・官 職	氏 名	任 期
〇保 健 管 理 セ ン タ ー 所 長	長 井 勇	*
文 学 部 助 教 授	大 野 道 邦	5.10 1～ 7. 9.30
国 際 文 化 学 部 助 教 授	横 尾 能 範	4.10. 1～ 6. 9.30
法 学 部 助 教 授	美 崎 教 正	〃
法 学 部 助 教 授	丸 山 英 二	5.10. 1～ 7. 9.30
法 学 部 助 教 授	萩 原 泰 治	〃
法 学 部 助 教 授	出 井 文 男	〃
法 学 部 助 教 授	木 村 郁 雄	〃
法 学 部 助 教 授	横 田 慶 之	〃
法 学 部 助 教 授	羽 根 田 博 正	〃
法 学 部 助 教 授	青 木 健 次	〃
法 学 部 助 教 授	森 匡 史	〃
法 学 部 助 教 授	安 藤 四 一	〃
法 学 部 助 教 授	アレキサンダー・ロニーバレット	5. 4. 1～ 6.10.15
法 学 部 助 教 授	松 岡 憲 雄	*
法 学 部 助 教 授	谷 川 岩 雄	*
法 学 部 助 教 授	堺 貞 夫	*
法 学 部 助 教 授	山 添 孝	*
法 学 部 助 教 授	石 岡 淨 一 郎	*
法 学 部 助 教 授	上 本 昇	*
法 学 部 助 教 授	前 田 和 信	*
法 学 部 助 教 授	藤 田 一 郎	*
法 学 部 助 教 授	佐 藤 龍 之 助	*
法 学 部 助 教 授	田 中 賢 一	*
法 学 部 助 教 授	清 原 健 貳	*
法 学 部 助 教 授	海 野 興 治	*
法 学 部 助 教 授	杉 山 繁 實	*
法 学 部 助 教 授	伊 藤 祐 三	*
法 学 部 助 教 授	田 北 惠 三	*
法 学 部 助 教 授	深 谷 正 春	*
法 学 部 助 教 授	奥 村 武 久	5. 4. 1～ 7. 3.31
法 学 部 助 教 授	馬 場 久 光	5. 7.16～ 7. 3.31
(厚生課)		

◎放射性同位元素等管理委員会		
所 属・官 職	氏 名	任 期
医 学 部 長	山 鳥 崇	*
農 学 部 長	岩 崎 照 雄	*
医 学 部 附 属 長	望 月 眞 人	*
共 同 研 究 開 発 長	金 田 忠 吉	*
遺 伝 子 実 験 長	位 田 正 邦	*
共 同 実 験 室 長	磯 野 克 己	*
医 学 部 学 任 部 長	近 藤 隆	*
農 学 部 学 任 部 長	杉 本 敏 男	*
医 学 部 附 属 部 長	河 野 通 雄	*
共 同 研 究 開 発 長	脇 内 成 昭	*
遺 伝 子 実 験 室 長	佐 藤 賢 一	*
共 同 実 験 室 長	向 井 秀 幸	*
六 防 止 委 員 会 長	尼 川 大 作	*
医 学 部 地 区 防 止 委 員 会 長	河 野 通 雄	*
教 育 学 部 教 授	室 松 昭 彦	4.10. 1～ 6. 9.30
発 達 科 学 部 教 授	尼 川 大 作	"
理 学 部 教 授	野 崎 光 昭	5. 4. 1～ 7. 3.31
医 学 部 教 授	藤 原 美 定	5. 4.11～ 7. 4.10
工 学 部 教 授	中 前 勝 彦	4.10. 1～ 6. 9.30
農 学 部 教 授	王 子 善 清	"
自 然 科 学 研 究 科 教 授	土 田 廣 信	5. 4. 1～ 7. 3.31
医 学 部 附 属 病 院 教 授	千 葉 勉	5. 6.15～ 7. 6.14
保 健 管 理 所 長	長 井 勇	*
事 務 局 長	高 橋 一 之	*
理 学 部 部 長	位 田 正 邦	*

(庶務課)

◎附属図書館運営委員会		
所 属・官 職	氏 名	任 期
○附属図書館長	下 井 隆 史	6. 4. 1～ 8. 3.31
副 (人 館 系) 長	新 庄 浩 二	"
副 (自 館 系) 長	山 本 恵 一	5. 4. 1～ 7. 3.31
副 (人 館 系) 長	山 田 敬 三	"
副 (国 際 系) 長	風 呂 本 武 敏	"
副 (人 館 系) 長	中 山 章	4.10. 1～ 6. 9.30
医 分 学 部 教 授	岡 田 安 弘	6. 3.31～ 8. 3.30
文 学 部 教 授	横 田 冬 彦	6. 4. 1～ 8. 3.31
国 際 文 化 学 部 教 授	木 庭 宏	"
発 達 科 学 部 教 授	田 結 庄 良 昭	4.10. 1～ 6. 9.30
法 学 部 教 授	瀧 澤 栄 治	5. 4. 1～ 7. 3.31
経 済 学 部 教 授	丸 谷 冷 史	6. 4. 1～ 8. 3.31
経 営 学 部 教 授	出 井 文 男	5. 4. 1～ 7. 3.31
理 学 部 教 授	大 石 睦 生	"
医 学 部 教 授	岡 田 昌 義	6. 4. 1～ 8. 3.31
工 学 部 教 授	岩 壺 卓 三	5. 4. 1～ 7. 3.31
農 学 部 教 授	保 田 茂	"
文 化 学 研 究 科 教 授	依 田 博	"
自 然 科 学 研 究 科 教 授	辻 文 三	"
国 際 協 力 研 究 科 教 授	酒 井 啓 亘	6. 4.16～ 8. 4.15
大 学 教 育 研 究 セ ン タ ー 助 教 授	川 嶋 太 津 夫	6. 4. 1～ 8. 3.31

(附属図書館)

◎公務員宿舍運営委員会		
所 属・官 職	氏 名	任 期
主 計 課 長	鈴 木 幸 男	6. 4. 1～ 7. 3.31
文学部事務長	谷 川 岩 雄	"
発 達 科 学 部 補 佐 長	根 木 惣 次 郎	"
法 学 部 補 佐 長	石 岡 淨 一 郎	"
経 済 学 部 補 佐 長	松 田 宏	"
経 営 学 部 補 佐 長	上 林 憲 雄	"
理 学 部 補 佐 長	櫻 井 誠	"
医 学 部 補 佐 長	谷 川 成 美	"
医 学 部 補 佐 長	足 立 収	"
工 学 部 補 佐 長	黒 田 龍 二	"
農 学 部 補 佐 長	岡 山 高 秀	"
国 際 文 化 学 部 補 佐 長	湯 淺 英 男	"
○ 経 済 学 部 補 佐 長	小 幡 範 雄	"
附 属 図 書 館 長	伊 藤 祐 三	"
医 学 部 補 佐 長	山 名 信 明	"

(主計課)

◎学舎総合計画委員会		
所 属・官 職	氏 名	任 期
○学 長	鈴 木 正 裕	*
文 学 部 長	山 縣 熙	*
国 際 文 化 学 部 長	田 中 雅 男	*
発 達 科 学 部 長	奥 山 晃 弘	*
法 学 部 長	三 井 誠	*
経 済 学 部 長	池 本 清	*
経 営 学 部 長	宮 下 國 生	*
理 学 部 長	位 田 正 邦	*
医 学 部 長	山 鳥 崇	*
工 学 部 長	片 岡 邦 夫	*
農 学 部 長	岩 崎 照 雄	*
文 化 学 研 究 科 長	真 方 忠 道	*
自 然 科 学 研 究 科 長	藤 井 聰	*
国 際 協 力 研 究 科 長	村 上 敦	*
経 済 学 部 長	吉 原 英 樹	*
附 属 図 書 館 長	下 井 隆 史	*
医 学 部 附 属 病 院 長	望 月 眞 人	*
大 学 教 育 研 究 セ ン タ ー 長	多 淵 敏 樹	*
工 学 部 教 授	嶋 田 勝 次	5.10.16～ 7. 3.31
"	櫻 井 春 輔	5.10.16～ 7.10.15
事 務 局 長	高 橋 一 之	*
学 生 部 長	柳 川 高 明	*

(企画課)

◎総合情報処理センター運営委員会

所 属・官 職	氏 名	任 期
○センター長	高 森 年	*
副センター長	福 島 徹	*
文 学 部 助 教 授	金 水 敏	6. 4. 1～ 8. 3.31
国 際 文 学 部 助 教 授	大 月 一 弘	4.10. 1～ 6. 9.30
発 達 科 学 部 助 教 授	齊 藤 誠 一	"
法 学 部 助 教 授	森 下 敏 男	6. 4. 1～ 8. 3.31
経 済 学 部 助 教 授	大 谷 一 博	"
経 営 学 部 助 教 授	伊 藤 利 明	"
理 学 部 助 教 授	松 田 卓 也	"
医 学 部 助 教 授	伊 東 宏	"
医 学 部 附 属 病 院 助 教 授	山 本 節	"
工 学 部 助 教 授	金 田 悠 紀 夫	"
農 学 部 助 教 授	畑 武 志	"
経 済 学 部 助 教 授	阿 部 茂 行	"
附 属 図 書 館 長	下 井 隆 史	"
文 学 部 助 教 授	濱 田 正 美	"
自 然 科 学 研 究 科 助 教 授	松 田 光 正	"
大 学 教 育 研 究 センター 助 教 授	川 嶋 太 津 夫	"
国 際 協 力 研 究 科 助 教 授	吹 春 俊 隆	4.10.16～ 6.10.15
医 療 技 術 短 期 大 学 部 助 教 授	幡 山 文 一	4.10. 1～ 6. 9.30
教 務 システム 管 理 委 員 会 委 員 長	鎗 木 誠	*
一 般 情 報 処 理 教 育 委 員 会 委 員 長	小 野 厚 夫	*

(庶務課)

◎共同研究開発センター運営委員会

所 属・官 職	氏 名	任 期
○センター長	金 田 忠 吉	5. 4. 1～ 7. 3.31
副センター長	西 野 種 夫	5. 8. 1～ 7. 7.31
発 達 科 学 部 助 教 授	市 橋 秀 樹	5. 7. 1～ 7. 6.30
理 学 部 助 教 授	赤 坂 一 之	"
医 学 部 助 教 授	春 日 雅 人	"
工 学 部 助 教 授	中 前 勝 彦	"
農 学 部 助 教 授	真 山 滋 志	"
自 然 科 学 研 究 科 助 教 授	瀬 恒 潤 一 郎	"

(農学部)

◎遺伝子実験施設運営委員会

所 属・官 職	氏 名	任 期
○施設長	位 田 正 邦	6. 4. 8～ 8. 3.31
副施設長	大 川 秀 郎	6. 8. 1～ 8. 7.31
遺 伝 子 実 験 施 設 助 教 授	深 見 泰 夫	4.10. 1～ 6. 9.30
発 達 科 学 部 助 教 授	渡 邊 洋	6. 6. 1～ 8. 5.31
理 学 部 助 教 授	林 文 夫	"
医 学 部 附 属 病 院 助 教 授	松 尾 雅 文	"
工 学 部 助 教 授	久 保 田 博 信	"
農 学 部 助 教 授	山 形 裕 士	6. 8. 1～ 8. 5.31
自 然 科 学 研 究 科 助 教 授	中 村 千 春	6. 6. 1～ 8. 5.31
医 学 部 附 属 病 院 助 教 授	春 日 雅 人	"

(理学部)

◎バイオシグナル研究センター運営委員会

所 属・官 職	氏 名	任 期
○センター長	西 塚 泰 美	6. 6. 8～ 8. 3.31
副センター長	位 田 正 邦	"
セ ン ター 助 教 授	吉 川 潮	"
"	斎 藤 尚 亮	"
理 学 部 助 教 授	小 野 功 貴	6. 7. 1～ 8. 6.30
医 学 部 助 教 授	藤 原 美 定	"
工 学 部 助 教 授	竹 内 寛	"
農 学 部 助 教 授	豊 澤 敬 一 郎	"
自 然 科 学 研 究 科 助 教 授	王 子 善 清	"
医 学 部 附 属 病 院 助 教 授	市 橋 正 光	"
セ ン ター 助 教 授 (併)	山 村 博 平	"

(理学部)

◎大学教育研究センター運営委員会

所 属・官 職	氏 名	任 期
○センター長	多 淵 敏 樹	*
副センター長	瀧 上 凱 令	*
研 究 部 主 任	波 田 重 熙	*
学 生 部 長	柳 川 高 明	*
文 学 部 助 教 授	鈴 木 利 章	4.10. 1～ 6. 9.30
国 際 文 学 部 助 教 授	小 野 厚 夫	"
発 達 科 学 部 助 教 授	小 早 川 恵 三	"
法 学 部 助 教 授	犬 童 一 男	"
経 済 学 部 助 教 授	高 橋 秀 行	"
経 営 学 部 助 教 授	出 井 文 男	5. 4. 1～ 6. 9.30
理 学 部 助 教 授	世 良 明	4.10. 1～ 6. 9.30
医 学 部 助 教 授	岡 田 安 弘	6. 4. 1～ 8. 3.31
工 学 部 助 教 授	坂 口 忠 司	"
農 学 部 助 教 授	団 野 源 一	5. 4. 1～ 6. 9.30
文 学 部 助 教 授	池 上 洵 一	4.10. 1～ 6. 9.30
自 然 科 学 研 究 科 助 教 授	永 井 旺 二 郎	"
国 際 協 力 研 究 科 助 教 授	村 上 敦	"
経 済 学 部 助 教 授	中 野 勲	"

(国際文化学部)

◎留学生センター運営委員会

所 属・官 職	氏 名	任 期
○留学生センター長	木 村 修 三	*
文 学 部 助 教 授	柴 谷 方 良	5. 5. 1～ 7. 4.30
国 際 文 学 部 助 教 授	中 川 正 之	"
発 達 科 学 部 助 教 授	土 屋 基 規	"
法 学 部 助 教 授	浜 田 富 士 郎	"
経 済 学 部 助 教 授	高 橋 眞 一	"
経 営 学 部 助 教 授	出 井 文 男	"
理 学 部 助 教 授	和 田 信 二	"
医 学 部 助 教 授	横 山 光 宏	"
工 学 部 助 教 授	中 前 勝 彦	"
農 学 部 助 教 授	加 藤 肇	"
文 学 部 助 教 授	北 原 淳	"
自 然 科 学 研 究 科 助 教 授	高 田 至 郎	"
国 際 協 力 研 究 科 助 教 授	松 下 洋	"
大 学 教 育 研 究 センター 助 教 授	波 田 重 熙	6. 4.16～ 7. 4.30
国 際 交 流 委 員 会 委 員 長	新 家 龍	*
学 生 部 長	柳 川 高 明	*
事 務 局 長	高 橋 一 之	*

(留学生課)

◎水質管理センター運営委員会

所 属・官 職	氏 名	任 期
○センター長	新家 龍	4.10.21～ 6.10.20
副センター長	増 田 嘉 孝	5.10.21～ 7.10.20
文 助 学 教 部 授	奥 村 弘	4.10.21～ 6.10.20
国 際 文 化 学 部 授	坂 本 千 代	4.10. 1～ 6. 9.30
発 達 科 学 部 授	齊 藤 惠 逸	〃
法 学 部 授	近 藤 光 男	4.10.21～ 6.10.20
経 済 学 部 授	萩 原 泰 治	6. 4. 1～ 6.10.20
経 営 学 部 授	得 津 一 郎	〃
理 助 学 教 部 授	橋 本 真 佐 男	4.10.21～ 6.10.20
医 学 部 授	伊 東 宏	〃
工 学 部 授	今 駒 博 信	〃
農 学 部 授	南 森 隆 司	〃
自 然 科 学 研 究 科 授	大 久 保 政 芳	〃
経 済 経 営 研 究 所 授	下 村 和 雄	〃
医 学 部 附 属 病 院 授	奥 村 勝 彦	6. 4. 1～ 8. 3.31
農 学 部 附 属 農 場 授	楠 比 呂 志	4.10.21～ 6.10.20
保 健 管 理 課 授	奥 村 武 久	〃
大 学 教 育 研 究 セ ン タ ー 助 教 授	米 谷 淳	6. 4. 1～ 8. 3.31
事 務 部 長	松 井 道 太 郎	5. 4. 1～
学 生 部 長	細 野 浩 一	6. 4. 1～
附 属 図 書 館 長	伊 藤 祐 三	〃
医 学 部 附 属 病 院 授	幡 山 文 一	

(庶務課)

◎低温センター運営委員会

所 属・官 職	氏 名	任 期
○センター長	難 波 孝 夫	*
副センター長	山 本 恵 一	*
発 達 科 学 部 授	中 川 和 道	4.10. 1～ 6. 9.30
理 助 学 教 部 授	赤 坂 一 之	5. 4. 1～ 6.12.19
医 学 部 授	井 出 千 束	〃
工 学 部 授	出 来 成 人	〃
農 学 部 授	金 沢 和 樹	〃
自 然 科 学 研 究 科 授	林 真 至	6. 4. 1～ 8. 3.31
附 属 病 院 授	市 橋 正 光	4.12.20～ 6.12.19
理 助 学 教 部 授	戎 健 男	6. 4. 1～ 8. 3.31

(庶務課)

◎放射性同位元素共同実験室運営委員会

所 属・官 職	氏 名	任 期
○室 長	磯 野 克 己	6. 4. 1～ 7. 3.31
副 室 長	増 田 嘉 孝	〃
主 任 者	向 井 秀 幸	*
管 理 担 当 者	吉 野 盛 行	*
理 助 学 教 部 授	小 野 功 貴	4.10. 1～ 6. 9.30
助 教 授	増 田 嘉 孝	〃
教 授	留 岡 和 重	〃
工 学 部 授	沖 村 孝	〃
助 教 授	大 村 直 人	〃
農 学 部 授	安 田 武 司	〃
助 教 授	中 村 千 春	〃
発 達 科 学 部 授	室 松 昭 彦	〃
自 然 科 学 研 究 科 授	吉 田 憲 鐵	5. 4. 1～ 7. 3.31

(庶務課)

◎機器分析センター運営委員会

所 属・官 職	氏 名	任 期
○センター長	西 野 種 夫	6. 6.24～ 8. 3.31
文 助 学 教 部 授	藤 井 勝	6. 6.24～ 7. 3.31
発 達 科 学 部 授	中 川 和 道	6. 6.24～ 8. 3.31
理 助 学 教 部 授	坂 本 博	6. 6.24～ 7. 3.31
医 学 部 授	川 端 眞 人	6. 6.24～ 8. 3.31
工 学 部 授	赤 澤 堅 造	6. 6.24～ 7. 3.31
農 学 部 授	安 田 武 司	6. 6.24～ 8. 3.31
医 学 部 附 属 病 院 授	水 野 耕 作	6. 6.24～ 7. 3.31
自 然 科 学 研 究 科 授	中 村 昇	6. 6.24～ 8. 3.31

(大学院課)

◎教務関係事務システム管理委員会

所 属・官 職	氏 名	任 期
文 助 学 教 部 授	渥 美 公 秀	6. 4. 1～ 8. 3.31
○国 際 文 化 学 部 授	鎗 木 誠	4.10. 1～ 6. 9.30
発 達 科 学 部 授	竹 内 康 滋	〃
教 育 学 部 授	近 藤 徳 彦	6. 4. 1～ 8. 3.31
法 学 部 授	磯 村 保	5. 4. 1～ 7. 3.31
経 済 学 部 授	原 正 行	6. 4. 1～ 8. 3.31
経 営 学 部 授	本 多 佑 三	〃
理 助 学 教 部 授	郡 司 幸 夫	〃
医 学 部 授	伊 東 宏	〃
工 学 部 授	田 中 榮 一	〃
農 学 部 授	山 本 博 昭	〃
大 学 教 育 研 究 セ ン タ ー 助 教 授	米 谷 淳	〃
文 化 学 研 究 科 授	金 水 敏	6. 1. 1～ 7. 12.31
自 然 科 学 研 究 科 授	小 野 功 貴	6. 4. 1～ 8. 3.31
国 際 協 力 研 究 科 授	香 川 孝 三	〃
医 療 技 術 短 期 大 学 部 授	幡 山 文 一	6. 4. 1～ 6. 9.30
教 育 学 部 授	高 森 年	
学 生 部 長	細 野 浩 一	

(入試課)

◎インターナショナル・レジデンス運営委員会

所 属・官 職	氏 名	任 期
文 助 学 教 部 授	山 口 光 一	4.10. 1～ 6. 9.30
国 際 文 化 学 部 授	定 延 利 之	5. 4. 1～ 6. 9.30
教 育 学 部 授	齊 藤 誠 一	5.10. 1～ 7. 9.30
発 達 科 学 部 授	川 畑 徹 朗	4.10. 1～ 6. 9.30
法 学 部 授	岸 田 雅 雄	5.10. 1～ 7. 9.30
経 済 学 部 授	藤 岡 秀 英	5. 4. 1～ 6. 9.30
経 営 学 部 授	高 橋 悦 夫	6. 4. 1～ 6. 9.30
理 助 学 教 部 授	赤 坂 一 之	5.10. 1～ 7. 9.30
医 学 部 授	松 尾 雅 文	5. 4. 1～ 6. 9.30
工 学 部 授	松 尾 成 信	4.10. 1～ 6. 9.30
農 学 部 授	中 西 テ ッ	5.10. 1～ 7. 9.30
文 化 学 研 究 科 授	林 原 純 生	4.10. 1～ 6. 9.30
自 然 科 学 研 究 科 授	富 田 昌 宏	〃
国 際 協 力 研 究 科 授	松 下 洋	5. 4. 1～ 6.10.15
経 済 経 営 研 究 所 授	井 澤 秀 記	5.10. 1～ 7. 9.30
附 属 病 院 授	玉 木 紀 彦	〃
○学 生 部 長	柳 川 高 明	*
留 学 セ ン タ ー 生 長	木 村 修 三	*
相 談 主 事	寺 垣 内 政 一	*

(留学生課)

◎一般情報処理教育委員会

所 属・官 職	氏 名	任 期
文 助 学 教 部 授	菱 川 英 一	5. 4.30～ 7. 4.29
○国 際 文 化 学 部 授	小 野 厚 夫	4.10. 1～ 6. 9.30
発 達 科 学 部 授	高 橋 正	〃
法 学 部 授	樫 村 志 郎	5. 4.30～ 7. 4.29
経 済 学 部 授	三 谷 直 紀	〃
経 営 学 部 授	伊 藤 利 明	〃
理 助 学 教 部 授	水 本 好 彦	〃
医 学 部 授	岡 田 安 弘	〃
工 学 部 授	金 田 悠 紀 夫	〃
農 学 部 授	川 村 恒 夫	〃
経 済 経 営 研 究 所 授	富 田 昌 宏	〃
附 属 病 院 授	春 日 雅 人	5. 6.15～ 7. 6.14
大 学 教 育 研 究 セ ン タ ー 講 師	山 内 乾 史	6. 4. 1～ 8. 3.31
附 属 図 書 館 長	安 川 克 己	*
総 合 情 報 処 理 セ ン タ ー 長	高 森 年	*
副 セ ン タ ー 長	福 島 徹	*

(庶務課)

◎創立九十周年記念事業委員会

所 属・官 職	氏 名	任 期
○学 長	鈴木 正 裕	*
文 学 部 長	山 縣 熙	*
国際文化学部長	田 中 雅 男	*
発達科学部長	奥 山 晃 弘	*
法 学 部 長	三 井 誠	*
経済学部長	池 本 清	*
経営学部長	宮 下 國 生	*
理 学 部 長	位 田 正 邦	*
医 学 部 長	山 鳥 崇	*
工 学 部 長	片 岡 邦 夫	*
農 学 部 長	岩 崎 照 雄	*
自然科学研究科長	藤 井 聰	*
国際協力研究科長	村 上 敦	*
経済学研究科長	吉 原 英 樹	*
附属図書館長	下 井 隆 史	*
医学部部長	望 月 眞 人	*
医療技術短期大学部部長	前 田 和 美	*
事務局 長	高 橋 一 之	*
学 生 部 長	柳 川 高 明	*
経済学教授	神 木 哲 男	年史編集委員会委員長 (5号委員)
副 学 長	小 林 哲 夫	推進委員会・検討委員会委員長 (5号委員)

(庶務課)

◎百年史編集委員会

所 属・官 職	氏 名	任 期
文 学 部 教授	横 田 冬 彦	
国際文化学教授	宮ヶ谷 徳 三	
発達科学教授	船 寄 俊 雄	
法 学 部 教授	藤 原 明 久	
○経済学教授	神 木 哲 男	
経営学教授	宗 像 正 幸	
理 学 部 教授	中 村 昇	
医 学 部 教授	岡 田 安 弘	
工 学 部 教授	川 谷 健	
農 学 部 教授	新 家 龍	
経済経営研究所教授	富 田 昌 宏	
医学部附属病院教授	岡 田 昌 義	
自然科学研究科教授	北 村 新 三	
国際協力研究科教授	吉 井 昌 彦	
医療技術短期大学部助教授	塚 本 康 夫	
庶 務 部 長	黒 田 定 男	*
経 理 部 長	岩 崎 司	*
施 設 部 長	松 井 道 太 郎	*
学 生 部 次 長	細 野 浩 一	*
附属図書館長	熊 谷 俊 夫	*

(庶務課)

◎国際交流委員会

所 属・官 職	氏 名	任 期
文 学 部 教授	真 方 忠 道	5. 7. 1～ 7. 6.30
国際文化学教授	稲 積 包 昭	4.10. 1～ 6. 9.30
教育学教授	濱 本 純 逸	5. 7. 1～ 7. 6.30
発達科学教授	清 水 重 勇	4.10. 1～ 6. 9.30
法 学 部 教授	濱 田 富 士 郎	5. 7. 1～ 7. 6.30
経済学教授	高 橋 眞 一	6. 4. 1～ 7. 6.30
経営学教授	佐々木 弘	"
理 学 部 教授	曾 谷 紀 之	5. 7. 1～ 7. 6.30
医 学 部 教授	松 村 武 男	"
工 学 部 教授	森 脇 俊 道	"
○農 学 部 教授	新 家 龍	"
文化科学研究科教授	片 柳 榮 一	5. 7. 1～ 7. 6.30
自然科学研究科教授	辻 莊 一	"
国際協力研究科教授	松 下 洋	5. 4. 1～ 6.10.15
経済経営研究所教授	阿 部 茂 行	5. 7. 1～ 7. 6.30
附属病院教授	千 葉 勉	"
附属図書館長	下 井 隆 史	*
事務局 長	高 橋 一 之	*
学 生 部 長	柳 川 高 明	*
留 学 生 長	木 村 修 三	*

(国際主幹)

◎情報ネットワークシステム委員会

所 属・官 職	氏 名	任 期
文 学 部 教授	百 橋 明 穂	5.11. 1～ 7.10.31
国際文化学教授	鎗 木 誠	4.10. 1～ 6. 9.30
発達科学教授	城 仁 士	"
法 学 部 教授	樫 村 志 郎	6. 4. 1～ 7.10.31
経済学教授	大 谷 一 博	5.11. 1～ 7.10.31
経営学教授	久 本 久 男	"
理 学 部 教授	水 本 好 彦	"
医 学 部 教授	住 野 公 昭	"
工 学 部 教授	櫻 井 春 輔	"
農 学 部 教授	堀 尾 尚 志	"
文化科学研究科教授	百 橋 明 穂	"
自然科学研究科教授	前 川 禎 男	5.11. 1～ 7. 3.31
国際協力研究科教授	豊 田 利 久	5. 4. 1～ 6.10.15
経済経営研究所教授	定 道 宏	5.11. 1～ 7.10.31
医学部附属病院教授	河 野 通 雄	"
大学教育研究科教授	川 嶋 太 津 夫	6. 4. 1～ 8. 3.31
医療技術短期大学部助教授	本 間 康 浩	5.11. 1～ 7.10.31
附属図書館長	下 井 隆 史	*
○総合情報処理センター長	高 森 年	*
情報ネットワーク運用委員会委員長	蛭 名 邦 禎	*
工 学 部 教授	上 田 完 次	6. 7. 1～ 8. 6.30

(庶務課)

◎発明委員会

所 属・官 職	氏 名	任 期
発達科学部教授 教	濱 口 八 朗	4.10. 1～ 6. 9.30
理学部講師 理	山 口 覚	5. 4. 1～ 7. 3.31
医学部教授 医	前 田 盛	6. 4. 1～ 7. 3.31
工学部教授 工	田 中 初 一	5. 4. 1～ 7. 3.31
農学部教授 農	真 山 滋 志	6. 4. 1～ 8. 3.31
経営学部教授 経	出 井 文 男	〃

(庶務課)

◎組換えDNA実験安全委員会

所 属・官 職	氏 名	任 期
理学部教授 〇理	磯 野 克 己	5. 4. 1～ 7. 3.31
医学部教授 医	片 岡 徹	6. 4. 1～ 8. 3.31
医学部教授 医助	深 瀬 正 晃	6. 6.16～ 7. 3.31
農学部教授 農助	中 村 千 春	6. 4. 1～ 8. 3.31
工学部教授 工助	大久保 政 芳	5. 4. 1～ 7. 3.31
自然科学研究科教授 自	橋 秀 樹	〃
国際文化学部教授 国	片 柳 榮 一	6. 4. 1～ 8. 3.31
医学部教授 医	千 葉 勉	5. 4. 1～ 7. 3.31
人 事 課 長	深 谷 正 春	5. 4. 1～

(庶務課)

◎公開講座委員会

所 属・官 職	氏 名	任 期
文学部講師 文	宮 田 眞 司	6. 1. 1～ 7.12.31
国際文化学部教授 国	光 末 紀 子	〃
発達科学部教授 発	丸 谷 宣 子	〃
法学部教授 〇法	三 宅 一 郎	5. 1. 1～ 6.12.31
経済学部教授 経	高 橋 眞 一	6. 1. 1～ 6.12.31
経営学部教授 経	出 井 文 男	6. 1. 1～ 7.12.31
理学部教授 理助	菅 野 了 次	5. 1. 1～ 6.12.31
医学部教授 医	松 尾 雅 文	6. 1. 1～ 7.12.31
工学部教授 工	荒 井 健 次	〃
農学部教授 農	相 蘭 泰 生	5. 1. 1～ 6.12.31
経済経営研究所教授 経助	小 幡 範 雄	〃
医学部附属病院教授 医	千 原 和 夫	〃

(庶務課)